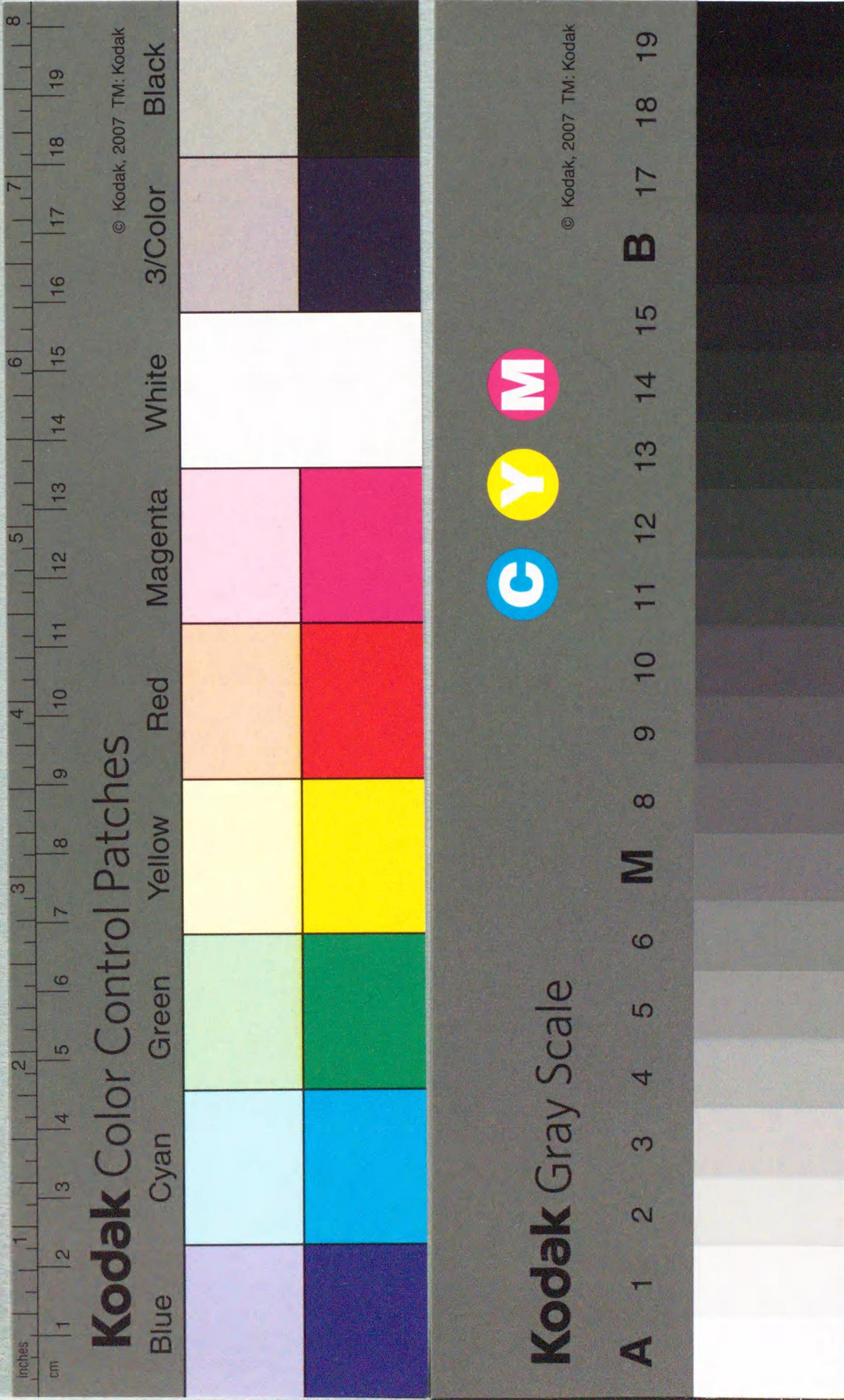


復興局經理部

震災ノ影響 (其四) 運輸、交通

682
7

566
部 冊
林





例言

一、本書編輯ノ由來ハ既刊ノ分ニ同シ、唯編輯者ノ見ル處ニヨリテ或ハ全文ヲ輯録シ或ハ之レヲ抄シタルモノアリ

二、本書ニ於テハ市役所及商業會議所ノ報告ヲ一括シタルコト既刊ノモノニ同シ、其ノ内容大同小異ノモノニアリテハ其ノ一ヲ採ツテ兩者ヲ代表セシメタルモノアリ

三、本書ニ掲載ナキモノハ報告書未到ノモノトス

大正十三年七月

復興局 經理部

2805
11

目次

概設……………一頁

一、本土

東京府……………九

八王子市

静岡縣……………六

濱松市

埼玉縣……………六

千葉縣……………九

茨城縣……………九

水戸市

栃木縣……………二頁

宇都宮市

足利市

栃木町

群馬縣……………三

前橋市

高崎市

桐生市

山梨縣……………四

甲府市

愛知縣……………五

名古屋市

半田町

兵庫縣……………六頁

神戸市

姫路市

岡山縣……………四

岡山市

廣島縣……………四

廣島市

尾道市

福山市

吳市

山口縣……………五

下ノ關市

鳥取縣……………五

島根縣……………五

頁

頁

豐橋市	三
岡崎市	三
一宮市	三
岐阜縣	三
滋賀縣	三
大津市	三
三重縣	三
津市	三
京都府	三
京都市	三
堺市	三
奈良縣	三
和歌山縣	三
和歌山市	三

兵庫縣	六
神戶市	六
姫路市	六
岡山縣	四
岡山市	四
廣島縣	四
廣島市	四
尾道市	四
福山市	四
吳市	四
山口縣	五
下ノ關市	五
鳥取縣	五
鳥取市	五
島根縣	五
島根市	五

二、四 國

長野縣……………五頁

長野市

上田市

松本市

新潟縣……………五頁

新潟市

直江津市

富山縣……………五頁

富山市

高岡市

福井縣……………五頁

福井市

敦賀市

石川縣……………五頁

金澤市

福島縣……………六頁

福島市

山形縣……………五頁

山形市

宮城縣……………六頁

仙台市

秋田縣……………六頁

秋田市

酒田町

岩手縣……………三頁

盛岡市

青森縣……………三頁

二、四 國

香川縣……………七頁

高松市

丸龜市

愛媛縣……………七頁

宇和島市

高知縣……………七頁

高知市

德島縣……………六頁

德島市

三、九 州

福岡縣……………三頁

門司市

小倉市

福岡市

若松市

大牟田市

久留米市

佐賀縣……………七頁

佐賀市

大分縣……………六頁

熊本縣……………六頁

熊本市

長崎縣……………八頁

長崎市

宮崎縣……………三頁

宮崎市

鹿兒島縣……………三頁

鹿兒島市

昭和2年10月31日第1回
圖書照合検査済之證

林
566
部 冊

鹿兒島市
沖繩縣……………三頁

四、北海道

函館市……………六七
小樽市……………六七
札幌市……………九三
旭川市……………九三
釧路市……………九四
五植民地
樺太……………九七

大泊
眞岡
豊原

朝鮮……………六頁

釜山
京城
仁川
群山
群山
木浦
平壤
平浦
鎮南
元山
關東州……………三三
大連市
營口
臺灣……………三三

目次終

概説

大正十一年九月一日突如トシテ起レル大地震ハ一府五縣ノ地ニ大損害ヲ與ヘ次テ京濱兩市ノ大半ヲ焦土ト化セリ

羅災民ハ住ムニ家ナク、着ルニ衣ナク、喰フニ食ナシ、逃レンカ利用スヘキ交通機關ナク、利用スヘキ交通機關ナキヲ以テ救授者ノ來ルヤ速カナル能ハサルナリ、旬日ノ間東京、横濱ハ孤立ノ裡ニアリキ、孤立ハ恐怖ヲ産ミ恐怖ハ徒ラニ流言蜚語ヲ走ラシメヌ

這次震災ノ齋ラセル影響頗ル多シト雖モ其ノ最モ甚シキハ交通機關ノ破壊ニ基ク社會活動ノ停頓トナス

惟フニ交通機關ハ社會活動ノ中樞タリ、一日之ヲ欠ク、社會ノ活動ハ即チ一日休止ス、社會ノ活動カ一日休止シタリトセハ其ノ影響スル所果シテ如何ナルヘキカ想像モ余リアリト曰ハサルヘカラス

以下各府縣各都市ノ報告ニ見ルカ如ク交通機關ノ破壊カ如何ナル影響ヲ及ホシタルカハ寔ニ豫想ノ外ト云フヘシ

今左ニ國有鐵道ノ被害狀況ヲ概記センカ

東海道方面ノ各線ハ御殿場以東、中央線ハ與瀨以東、東北本線ハ川口町以南、常磐線ハ北千住以南、

復興局 寄贈
大正17年9月26日收受

總武線ハ兩國橋大網間、房總線ハ蘇我大網間、不通トナリ其ノ總延長實ニ三百四十七哩(營業哩)ニ達シ其ノ全部ノ復興ニハ七千五百萬圓ノ經費ヲ以テ三ケ年ヲ要スルノ大被害ヲ蒙レリ

機關車、客貨車等ノ燒失又ハ破損シタルモノ約二千輛ノ多キニ達シ、又驛舎倉庫等ノ破損、燒失シタルアリ、各方面ニ於ケル被害ハ頗ル大ニシテ九月一日以後約旬日ノ間ハ利用スヘキ交通機關ナク、震災地ハ混雜ト恐怖ト、物資ノ乏欠トノ裡ニ孤立スルノ悲慘ナル狀況ヲ呈シタリ

鐵道當局ハ銳意之カ復舊ニ努力シ百方手段ヲ講シテ交通ヲ整理ス、其ノ結果ハ當初豫想セラレタルヨリモ意外ニ早ク進捗シ十一月ニ入りテハ應急施設ヲ打切り根本的ノ復舊ニ力ヲ致ス迄トナレリ

今左ニ全線列車開通ノ月日ヲ示セハ左ノ如シ(鐵道省ノ報告ニヨル)

山手線	九月四日
常磐線	九月五日
東北線、信越線	九月二十二日
橫濱線(八王子、東神奈川間)	九月二十八日
橫須賀線	十月一日
中央線	十月二十五日
東海道線	十月二十八日

熱海線(國府津、早川間)

總武線

十一月十五日
十一月二十八日

次ニ電車區間ナル

池袋—赤羽間ハ	九月二十一日
品川—上野間ハ	九月二十三日
中央線ハ	十月五日
東京—橫濱間ハ	十月二十一日

ニ電車ノ開通ヲ見タリ

既ニ斯ノ如シ、東京市内ハ極度ニ物資欠乏シ羅災民ハ退京ヲ望ミ、羅災者ヲ救ハンカ爲ニ親戚、友人ハ上京シ來ル、然モ利用スヘキ交通機關ハ上述ノ如シ鐵道當局ハ爲ニ運轉上ノ非常手段ヲ講シ、關釜聯絡船ヲ以テ芝浦、清水港間ヲ運航シテ避難民ヲ輸送スルノ途ニ出ツ

又貨物ニ對シテハ食糧品、救護品及復興用材ノ輸送ヲ先トシ上京スル者ヲ制限シテ東京ノ混雜ヲ防ク等頗ル努ムル所アリ、幸ニシテ漸次常態ニ復スルヲ得タリ

救恤品、食糧品、生活必需品等ノ輸送ニ對スル運賃ノ減免、羅災者及救護員ノ無賃乘車又ハ半減ヲナシタル爲メ大正十二年九月ノ旅客及貨物收入カ前年同期ニ比シ六百四十一萬圓ノ減少ヲ見タルノ一事

ハ如何ニ羅災地ノ救護及復舊ノ爲ニ鐵道カ犠牲トナレルカラ如實ニ物語ルモノト曰ハサルヲ得ス
 翻ツテ海運界ノ狀況ヲ見ルニ震災前ノ海運界ハ頗ル不振ヲ極メ近海方面ハ船腹ノ過剩ニ苦シミ繫船増
 加ノ傾向ヲ示シ運賃ハ一齊ニ低落ノ步調ヲ辿リツ、アリシ際俄然大震災勃發シ鐵道ノ大破壊トナリ陸
 上ノ輸送杜絶シタル爲メ政府ハ非常徵發令ニ基キ船舶ヲ徵傭シテ京濱兩地ノ救護、救恤、復興材料ノ
 輸送及避難民ノ輸送ニ從事ス

今其ノ徵傭シタル船舶ノ隻數及噸數ヲ示セハ左ノ如シ

徵傭船隻數

二、〇六五隻

(但シ五百噸以下ノ汽船ヲ含マズ)

同上延噸數

五、七三六、七二一噸

(社會局ノ報告ニヨル)

其ノ徵傭シタル船數ハ以上ノ如キ極メテ大ナル數字ニ上ル以テ當時ノ輸送狀況ヲ知ルニ足ラン

因ニ其後當局ハ全部之レヲ傭船ニ改メ初メヨリ傭船シタルモノトシ全部其ノ料金ヲ支拂ヒタリ

政府カ以上ノ如ク救護用諸材料及諸物資ノ輸送ニ從事スルノ外民間ニ於テモ亦物資ノ輸送ヲ海上ニテ
 行ハサル可ラサルニヨリ近海方面ハ意外ニ多數ノ船舶ヲ要スル事トナリ其結果運賃及傭船料ノ騰貴ヲ
 見ルニ至レリ

又復興材料中ノ木材及鐵物ノ如キハ其ノ大需要ヲ見越シ或ハ内地生産力ノ不足ニ基キ之レカ供給ヲ海
 外ニ仰クモノ續出シタル結果遠洋航海モ亦異常ナル緊張ヲ示シタリ、(其ノ詳細ハ之レヲ各開港場ノ市
 役所及商業會議所ノ報告ニ看ヨ)

震災ノ運輸及交通ニ及ホシタル影響ハ本書編輯ノ大正十三年七月ニ至リテ尙末々常態ニ復スル能ハサ
 ルヲ見テ如何ニ其甚大ナリシカラ知ルニ足ル、若シ夫レ之レカ爲ニ蒙リタル直接間接ノ損害ニ至リテ
 ハ今猝ニ測リ知ル可ラス

一本
土

東京府 (十二月二十二日)

震災ニ依ル交通機關ノ被害狀況左ノ如シ

一、道路橋梁

府直轄ノ分			町村管轄ノ分		
種別	個所數	損害額	種別	個所數	損害額
道路	一六六	二二六、九九 <small>圓</small>	道路	八七	一一二、七六 <small>圓</small>
橋梁	五七	二一〇、〇四 <small>圓</small>	橋梁	三六	三五、二九 <small>圓</small>

二、電氣軌道

イ、東京市

1、軌道

燒失區域 被害ハ軌道燒損、屈曲、破損、工事施行中ノ個所破損、軌道素質ニ對スルモ
ノ等ニシテ其ノ損害額ハ 三、四六七、四〇六圓

火災ヲ免レタル地域 軌道基礎沈下、鋪裝破壞等ニシテ其ノ損害額ハ 四〇、〇〇〇圓

2、電車線 主トシテ火災地域ニシテ其ノ延長約四十一哩ニシテ其損害額ハ

五二二、八〇〇圓

3、諸建物ノ全焼其ノ他ノ損害

二、一六〇、七二三圓

4、橋梁ノ總延長四千三百三十一尺此ノ損害ハ素質ノ損害ヲ含ミ

九四〇、〇〇〇圓

5、車輛全焼其ノ他半焼ニテ

一二、五〇六、四〇〇圓

6、變壓所施設ノ破害

一、八四三、一七七圓

7、應急施設費

八、五九一、〇〇〇圓

8、復舊施設費

五、四九六、〇〇〇圓

9、運輸 狀況

電車ノ損害以上ノ如ク多大ナリシヲ以テ運輸ノ復舊モ容易ナラス其ノ始メ

テ神明町車庫前—上野三橋間ノ運輸ヲ九月六日ニ開始シテ以來漸次各方面ニ及ホシ十月二十八日

迄ニ概ネ全般ニ一應ノ運輸ヲ開始スルニ至レリ

九月六日一部電車開通ト共ニ羅災者ノ無料乗車ノ取扱ヲナシ、其ノ後九月二十四日限り之ヲ廢止

シタリ

■、玉川電氣鐵道

變壓所、送電線路、配電線路、電車線路及軌道等ニ多少ノ損害アリ其ノ總損害

二〇、九六二圓

ナリ

九月一日ヨリ七日マテ全線ノ運輸ヲ休止セシモ八日ヨリ一部ノ運輸ヲ開始シ同二十日ヨリ全線ノ開

通ヲ見タリ

九月八日ヨリ九月二十日マテ羅災者ノ無賃乗車ノ取扱ヲナシタリ

ハ、京成電氣軌道

軌道、架空線、諸建築物等ノ被害

五〇、六七八圓

ニ上リ九月一日ヨリ、九月四日マテ營業ヲ休止シ九月二十日マテ無賃乗車ノ取扱ヲナシタルコト亦

同シ

ニ、西武 鐵道

震災ニヨル損害ハ微少ナリ、九月四日マテ運輸ヲ休止シタルコト、避難者ノ無賃乗車ヲナサシメタ

ルコト前者ト同シ

ホ、京王電氣鐵道

客車ノ焼失、諸設備其ノ他ノ被害

九四、九六〇圓

ニ上リ應急施設費トシテ

一二、六三三圓

ヲ支出シタリ

九月四日ヨリ一部運輸ヲ開始シ同二十九日ニ至リ全線ノ開通ヲ見タリ又羅災者ニハ九月二十日マテ

無賃乗車ノ取扱ヲナシタリ

へ、王子電氣軌道

震災直接ノ損害ハ諸建物等ノ被害、電線路ノ被害及軌道ノ損害等ニテ約 七六、八七一圓
ニシテ九月五日マテ運轉ヲ休止シタリ、全線ノ無賃輸送ハ三日間ナリキ

ト、城東電氣軌道

諸建物、軌道及電氣器具ノ被害 五六、三二五圓

應急工費 四〇、一八九圓

復舊費 七一、七八八圓

十月九日運轉ヲ開始セリ、乗客ノ無賃輸送ヲナサス

チ、京濱電氣鐵道

1、軌道、橋梁ノ損害 四九、七〇〇圓

2、電車線ノ損害 一五、二九〇圓

3、諸建物等ノ損害 四九三、四〇〇圓

4、車輛ノ破損 二九、三四〇圓

5、應急工費 三四、五五〇圓

6、復舊費 二九三、四四〇圓

ノ損害ヲ蒙レリ

九月十日マテ全線ノ運轉ヲ休止シ十一月九日一小部分ヲ除ク外悉

ク震災前ノ狀況ニ復スルニ至レリ

九月十一日ヨリ九月二十四日ニ至ル十四日間罹災民其ノ他ノ無賃乗車ヲ取扱ヒタリ

(以上東京府調査)

東京市及其ノ附近ニ於ケル電氣軌道ノ損害ノミヲ舉クルモ以上ノ如シ、若シ道路ノ破壊、橋梁ノ墜落等其ノ損害算ヘ來レハ日モ亦足ラサルナリ、東京市内外ノ交通機關前述ノ如ク破壊セラレタルニ罹災民ハ或ハ右シ或ハ左シ罹災民其他住民ノ急需品ハ急速之レヲ供給セサルヘカラス、罹災民ヲ救ハンカ爲ニハ或ハ田舎ヨリ多數ノ者ノ入込ミ來ルアリ、混亂ノ狀名狀スヘカラサルモノアリシハ當然ナリ固ヨリ東京市内ノ混亂ハ人心ノ不安定ニ依ルコト多カルヘキモ交通機關ノ破壊力更ニ入心ヲ不安ナラシメ市内ノ混亂ヲ甚シカラシメタルハ亦疑ヲ容レス

東京ニ通スル國有鐵道ハ悉ク東京附近ニ於テ其ノ運轉ヲ止メ東京ニ直達スルモノナカリシニヨリ鐵道積載客、貨物ハ總テ乗換、積換ヲナスヲ余義ナクセラレ乗客ハ多クハ徒歩、貨物ハ馬車等ニテ市内ノ内外ニ搬入搬出セラル、コト、ナリタリ、然レトモ車馬、自動車等ノ燒失シ其ノ數量ハ減少シ居リ此ノ情勢ニ應スル能ハサリシナリ

サレハ多クノ救護、救恤品ハ各地ヨリ之レヲ船積シテ芝浦ヨリ荷上ケシ市内ニ配給スルノ途ニ出テタ
 リ、芝浦ノ沖合遙ニ帆檣林立シ大小ノ船舶白波ヲ驅ツテ出入セルハ確ニ人心ノ安定ニ與ツテ力アリキ
 今各種ノ物資カ芝浦ニ依テ吞吐スル能ハサリシモノト仮定セハ東京ハ全ク孤立無援其ノ結果ハ之ヲ想
 像スルダニ余リアルヘシ

翻テ東京市水上ノ交通状態ヲ見ルニ或ハ傳馬船ノ燒失、沈没シタルアリ或ハ大川筋ニ於ケル小蒸汽船
 (曳船ヲ兼ヌ)ノ燒失シタルアリ或ハ發動機船ノ燒失セルアリ、物資輸送機關ハ殆ント全滅シタリト云
 フモ過言ニアラサル状態ヲ呈セリ

特ニ東京横濱間ニ於ケル物資輸送ノ機關トシテ重要ナル位地ヲ占メ兼テ東京市内ノ水上輸送機關タル
 船船ハ實ニ其ノ隻數ニ於テ約半數其ノ噸數ニ於テ約三割六分ノ減少ヲ見タルニ於テオヤ

京濱間船調 (海事部及水上警察署調)

震 災 前	隻	噸	數
震災ニヨリ失ハレタルモノ	五、八一〇	二五七、三〇〇	二五七、三〇〇
十一月八日現在	二、三二四	七一、一一六	七一、一一六
大正十三年三月末日現在	四、四五〇	二五〇、八五〇	二五〇、八五〇
	四、五二〇	二五八、六一一	二五八、六一一

備考 大正十三年三月末日現在ノ内譯ハ左ノ如シ

- 東京市在籍 二、九三〇隻 一一八、一〇〇噸
- 横濱市同 一、二七〇 一三〇、五〇〇
- 千葉縣同 八〇 一、六〇〇
- 埼玉縣同 一二〇 一、六二一
- 關 西同 五〇 二、四九〇
- 其 他 七〇 六、三〇〇

尙大川端方面ニテ燒失シタルモノハ

- 小 蒸 汽 船 三 隻 五十八噸
- 發 動 機 船 七 隻

ニシテ傳馬船ノ燒失沈没シタルモノハ今其ノ數ヲ詳ニスル能ハス

八 王 子 市 (十一月十三日 市役所 十一月二十二日 商業會議所)

交通機關ノ杜絶ハ運輸上ニ甚大ノ支障ヲ及ホシ九月一日以前出荷契約ノ物貨ニ停滯ヲ來シ恐惶一方ナ
 ラス最モ生活必需品中ノ米穀、麥粉ハ在庫少ナク加ヘテ避難者多數ノ入市アリ需給上ノ憂慮ヲ招致ス

而シテ一般交通ニハ敏速ヲ欠キ辛クモ自動車、自轉車便ニ俟ツ
中央線ノ運轉ハ緩慢ナカラモ運輸交通上ニ光明ヲ與ヘタリ
震災後關西方面トノ取引關係深クナレルハ注意スヘキ現象ナリ

靜岡縣 (大正十三年一月十日)

縣下ニ於テ震災ノ最モ激甚ナリシ伊豆地方ニ於テハ省線破損ノ爲メ京濱方面行貨物ハ全然輸送不能ニ
陥リタルノミナラス海路輸送ニ在リテモ汽船ニ支障ヲ來シ當地方ノ主要運輸機關タル駿豆鐵道ハ震災
後三日間ハ運轉不能トナリ大仁、伊東間ノ道路モ破損ノ爲メ自動車ノ運行充分ナラス又伊東熱海間ノ
如キハ汽船ノ航海ナク道路破壞シテ僅ニ舊道路ヲ辿ルノ止ムナキ状態トナレリ
縣下東部ニアリテハ箱根以東ヘノ交通全ク杜絶セル結果京濱地方ヘ移出スヘキ物資ハ沼津ニ停滯山積
シタル爲メ其ノ一部ハ清水港ニ逆送スルト共ニ一面幾分ハ人力馬脊ニ依リ運搬シ頗ル混亂ヲ極メタリ
其他各地トモ鐵道輸送ノ杜絶ニ依リ滯貨山積シ鐵道開通後ニ於テモ輸送容易ニ充實スルニ至ラス、加
フルニ貨物ハ震災前ニ比シ約二十五割ノ増加ヲ示シタル關係上輸送ニ一層ノ困難ヲ來セリ
海運業者ニアリテハ鐵道ノ不通ト同時ニ救護物資、復興材料ノ清水港ニ殺到セルノミナラス一般物資
ノ激増シタル爲メ船腹ノ不足ヲ來シ之亦滯貨夥シク運輸業者ハ相當利益ヲ收メタリ

靜岡市 (十二月十七日 市役所 大正十三年二月二日 商業會議所)

當市ニ於ケル影響ハ大ニシテ商品需給ノ圓滑ヲ欠キ價格ノ昂騰ヲ見タルモノアリ又一方ニハ其關係ニ
テ一時的氣配ヲ示シタルモノアルモ概シテ諸物價強調ヲ持續スルニ至レリ又震災地供給ノ商品漸次増
加シタルモ當市ハ幸ヒ清水港ヨリ船舶ノ便ヲ利シ之ニ依リ需要商品ヲ輸送スルコトヲ得タリト雖モ復
興材料其他物資増加ノ爲メ鐵道ノ滯貨益々増加ヲ來タシ商取引上尠カラズ支障ヲ來タシタルモノ、
如シ

勞働者カ京濱地方ヘ移動シタルコトハ市内ニ於ケル物資ノ輸送配給ニ大ナル支障ヲ來セリ
震災後靜岡驛ニ於ケル乗降客ハ著シク増加シ十月中ノ收入ハ前年同期ニ比シ五割四分ノ増加ナリト

濱松市 (十二月十七日 市役所 十二月十日 商業會議所)

東海道本線ノ不通ハ當地ノ如キ海運ノ便ナキ地方ハ殆ント致命傷ニテ物資ノ需給ニハ一大欠陥ヲ生シ
タリ、就中原料ヲ海外ニ需ムル機業界ハ現今ニ至ルモ阪神ニ供給ヲ仰クノ途ヲ講シタルモ貨車ノ配給
少ナキ爲操業ヲ休止スルノ止ナキニ至レリ、今震災前後ト前年トノ數字ヲ比較セハ左ノ如シ

鐵道運輸貨物對照表

大正十二年		貨物		前年同期貨物	
月	日	發	到	發	到
八月	九	七、五二九	一八、七八一	七、七七五	一九、七二九
九月	十	六、三七六	一四、八六四	一〇、一〇一	二一、四七六
十月	十一	九、六五六	一五、六三八	九、八〇四	二二、〇五〇

尙當濱松驛ニ於ケル貨物輸送能力ハ發送ニ於テ一日平均六百噸ヲ常トスルニ震災後ハ二割以上貨車ノ配給數ヲ減セラレタル爲メ滯貨ヲ増加シ十一月二十日現在滯貨ハ四千三百噸余ニシテ前年同期ニハ僅ニ七百五十噸余ナリキ、移入ニアリテモ同様ニシテ需要品ノ移入ニ困難ヲ感シツ、アリ

當地方ニ於ケル平均一日所要品ノ主ナルモノ、種類及數量ヲ貨車數ニヨリ示セハ次ノ如シ

米	五	五〇噸	酒、酢	一	八噸	銅、鐵、鋼	二	一五噸
麥	一	七	綿糸	八	八〇	セメント	一	一〇
豆類	一	八	肥料	七	七〇	石材	一	一〇
粉類	一	八	炭材	五	一五〇	石油	一	一〇
砂糖	五	五〇	木材	六	六〇	計	五	五六〇
車輛	五	噸						

埼玉縣 (大正十三年一月十日)

震災當時ハ非常ナル混雜ヲ呈セルモ自動車其他車馬ノ便ニ依リ大ナル不幸ヲ見ルニ至ラザリキ

千葉縣 (大正十三年一月十七日)

運河業ハ鐵道運輸ノ支障ニ伴ヒ一時船舶ノ航行激増シタル爲メ好影響アリ現今ニ於テモ災前ニ比シ好況ヲ呈ス

千葉市 (十二月二十七日 市役所)

鐵道及道路ノ破損、船舶燒失ノ爲メ一時交通杜絶ノ状態ニ陥リタリキ

茨城縣 (十二月二十八日)

常磐線土浦荒川沖驛間ニ於テ旅客列車顛覆シタルト東京各驛燒失ノ爲メ一時汽車不通トナリ九月三日ヨリ開通シタルモ東京ニ於ケル荷卸シ圓滑ヲ欠キ貨車ノ返送少キニ輸送貨物制限セラレタル爲メ地方ヨリ運送シタル荷物ハ遽カニ集積シ一時縣内各驛ニ停滯セシ貨物ハ約十萬噸ト稱セラレタリ其後東京各驛ノ回復ト共ニ取扱品ノ範圍擴張セラレ十一月中旬ヨリ運轉全ク復舊セルモ尙滯貨二萬二三千噸ニ及ヒ例年ノ數量ニ倍加セリ

鐵道復舊迄一般貨物ハ舟運及牛馬車ニ依リタルヲ以テ運賃著シク昂騰シ之等運輸業者ハ不測ノ利益ヲ得タリ鐵道關係ノ運送業者ハ取引關係ニ於テ多少損害ヲ蒙リタルモ其後ニ於ケル移出入貨物ノ激増ニ

依リ意外ノ利益ヲ得活況ヲ呈セリ

旅客列車ハ一時交通杜絶シタルモ直ニ回復シ救護ノ爲メ上京スルモノ避難シ來ルモノトノ往來ノ爲メ非常ナル混雜ヲ來セルカ九月下旬ヨリ通常ニ復シタリ

水 戸 市

(十二月二十日 市役所)
(十二月十四日 商業會議所)

運輸 震災當時輸送途中ニアリシ東京及關西方面行貨物ノ輸送中止返還及經路ノ變更又ハ半干燥繭ノ如キ干燥手入ヲナス等非常ノ混雜ヲ惹起セリ、其ノ後九月下旬頃迄ハ土浦、小山ニ至ル一部及東北方面行キヲ除キ一般荷物ノ運送ハ中止ノ状態ニ在リ尙引續キ東海道線、中央線不通ノタメ關西方面行ノ貨物ハ信越線乃チ高崎、篠ノ井、名古屋ヲ經テ至ルモノト大迂回線乃チ反對ノ方向ナル平、郡山、新潟、直江津、敦賀、米原等ヲ經テ至ルモノトアリシモ貨物輻輳ノタメ十數日乃至二十日以上ヲ要シ又肥料類ノ如キ折柄需要季節ニ際シタルタメ海路清水港ヨリ鹽釜港ニ陸揚シ鐵道ニヨリ轉送セルモノアリ、又石油類ノ如キハ多大ノ危險ヲ冒シ港灣ナラサル沖合ニ汽船ヲ繫留シ當市ヲ距ル約三里アル那珂湊ニ陸揚ヲナセルモノアリ、尤モ之等ハ概ネ石油ノ如キ雨水ニ曝露シテ支ナキ貨物ニ限ラレタリ十月下旬漸ク各線共開通セルモ復興ニ要スル諸材料及一般貨物輻輳ノタメ中繼驛ニ於ケル貨車操リノ都合若クハ東京方面着驛ニ於ケル勞力欠乏荷捌困難ノタメ貨物ノ發送停止數日間ニ至リ加之貨車不足ノタ

メ水戸驛ノ如キハ今尙數十車ノ滯貨ニ困シミツ、アリ

交通 震災後鐵道開通當時ハ專ラ罹災民ノ輸送ニ充テラレタルヲ以テ一般交通ハ一時殆ント不能ノ状態ニアリシモ間モナク復舊セラレタリ

栃 木 縣 (十三年一月十一日)

輸送物質著シク増加シタルニ反シ貨車ノ配給惡シキ爲メ各方面トモ甚シキ出荷難ニ陥リ運送業者ハ受入收容ノ餘地ニ窮シ出荷者ハ容易ニ資本化ヲ得ス非常ノ苦情ニアリ
一般交通ニ付テモ各地方共鐵道ノ故障ニ依リ來客雜踏、貨物ノ停頓名狀スヘカラサル状態ニアリ

宇 都 宮 市

(十一月二十一日 市役所)
(十一月二十四日 商業會議所)

震災後運輸ノ機能ハ殆ント破壊セラレ特ニ三ヶ月ニ及ハントスル今日尙恢復セラレス販賣業者ハ商品ノ轉移ニ苦シミ製造業者ハ原料燃料ノ欠乏ニ將タ製品ノ搬出ニ多大ノ困難ヲ感シ居レリ、當地附近ニ採掘スル大谷石ハ從業者約五千名年額約三百萬圓ニ達スルモノニシテ之レカ搬出ニハ一日平均少クトモ五十輛ノ貨車ヲ要スルニ一時輸送ノ杜絶ヨリ今日マテ配車セラル、ハ二十輛前後ニテ所要ノ半ニ達セサル状態ナレハ石材ハ堆積シ其數量四萬噸價格約四十萬圓ニ達シ當業者ハ資金ノ固定ト石材ノ置場ナキニ苦シミツ、アリ

足利市 (大正十三年一月十八日 市役所)

鐵道ノ混亂狀態一段落ヲ告ケ貨物輸送ノ取扱範圍漸次擴張セラル、ヤ全國各地ヨリ震災地方ヘノ輸送貨物殺到シ來リ災後ノ設備ニテハ到底消化シ難ク今日尙未タ前途ノ見込立タサル狀況ナリ

栃木町 (十一月二十日 商業會議所)

貨車配給ノ不足ニテ滯貨ヲ一掃スルハ容易ナラアル狀態ニアリ

高崎市 (大正十三年一月十二日 市役所
十二年十一月三十日 商業會議所)

本市ハ交通ノ要衝トシテ全國ニ重要ナル位置ヲ占メ鐵道ハ高崎線(東京間)信越線、兩毛線、上越線、及下仁田線(會社線)ノ起點ニシテ一朝有事ニ當リテハ實ニ欠ク可カラサルノ要地ナリ
而シテ震災ニ際シ救急ノ輸送品ハ鐵道ノ便ヲ欠キタルヲ以テ皆自動車、荷馬車ニ依リテ發送セラレ鐵道ノ便開ケタリト雖モ主トシテ救護用品ノミニテ持續サレタルモ其レスラ貨車ノ配給ハ意ノ如クナラス、其ノ後一般ノ貨物取扱ヲナスニ至レリト雖モ貨車ノ配給ハ依然トシテ不圓滑ニシテ且其ノ數減セラレタルハ發著共ニ荷捌キノ困難ニ陥リ業務上支障尠ナカラサリキ今日ニ至ルモ尙時々貨物ノ發送止等行ハル、ノ狀態ナリ

又交通上ニ於テハ東海道線、中央線ノ杜絶ニ會シ旅客貨物ノ輸送ハ皆本市ヲ通過スルノ外他ニ途ナキモ碓氷ノ索引力ニ制限アリテ輸送件ハサリキ當時旅客ノ高崎驛ヲ通過又ハ降車スルモノ日ニ二萬ト稱セラレ二旬ニシテ實ニ四十萬人ヲ算スルニ至リ整理行ハレス貨物列車ニ依リテ乗客ノ輸送ヲナスノ止ムナキニ至リ交通機關ノ混亂ハ其ノ極ニ達セリ、此間東海道中央線ノ客貨車ハ當方ノ輸送ニ使用セラレタルモノ、如ク貨物ハ一旦高崎驛ニ蒐集セラレテ後他ニ移送セラル、コト、ナレリ、關西方面ヨリノ到着貨物ニ至リテハ碓氷ノ索引力ニ制セラレシト、岩越線廻リ等ニ依ル貨車ノ配給不圓滑ノ爲メ一ケ日以上ヲ費シタルノ例モアリテ商工業者ノ蒙リタル打撃モ亦多大ナリキ

前橋市 (十一月十九日 市役所)

配車不足ノ爲メ自動車、荷馬車ヲ主トシテ之レカ取扱ヲ爲サ、ルヘカラサル苦境ニ陥リタリ、特ニ工場ニ於ケル石炭輸送ノ不圓滑ハ最モ著シキ現象ナリ

桐生市 (十一月十九日 市役所)

本市ノ移出入ハ震災後一時全ク杜絶シ商取引等ハ停止ノ狀態トナリシモ鐵道ノ開通ニ伴ヒ漸次復活シタルモ輸送ハ極メテ不圓滑ニシテ困難ヲ感シ居レリ

山梨縣

(十三年四月十九日)

震災ノ爲メ中央線與瀬上野原間不通トナリ爾後時々笹子附近ニ故障ヲ生シタルモ東海道線不通ノ爲關西ヨリ上京スルモノ京濱ヨリノ避難者等多クハ此ノ線ニ依リタル爲メ九月二十日迄ハ證明書ヲ有スル者ノ外乗車ヲ制限シテ調節スルノ已ムナキニ至レリ、然レトモ東海道線ノ故障除カル、ニ從ヒ乗客減少シ十月二十五日與瀬上野原間ノ開通後ハ乗客増加シタリ

與瀬上野原間開通後ハ貨車輸送活況ヲ呈シ特ニ東京方面行建築材料ノ發送激增セリ
入貨ハ從來東京ヨリノ移入七分、關西方面ヨリノ移入三分ノ割合ナリシカ震災後ハ關西方面七分其ノ他三分トナレリ

甲府市

(十一月二十二日 市役所 商業會議所)

震災ノ爲メ中央線與瀬上野原間不通トナリ爾後時々笹子附近ニ故障ヲ生シタルモ東海道線不通ノ爲メ關西ヨリ上京スル者京濱ヨリノ避難者等多ク此線ニ依レリ然レトモ東海道線ノ故障除カルニ從ヒ乗客減少シ十月二十五日與瀬上野原間開通後ハ手荷物携帶乗客増加シタリ

與瀬上野原間不通ノ際ハ東京方面行貨物ヲ取扱ハス入荷モ國鐵全線輻輳ノ爲メニ減退シ特ニ石炭、小

麥粉、砂糖、木材ノ移入激減セリ

與瀬上野原間開通後貨車輸送活況ヲ呈シ特ニ東京方面行木材類、建具、家具、寢具、疊等ノ發送激增セリ

入貨ハ從來東京ヨリノ移入七分、關西方面ヨリノ移入三分ノ割合ナリシガ震災後ハ關西方面七分、他方面三分トナレリ之レ一ニ交通系統ノ亂調ニ因ルナルヘシ

愛知縣

(大正十三年三月六日)

運輸業ニ關スル震災ノ影響ハ鐵道輸送ノ圓滑ヲ欠キシコト及海運界ノ大ニ活氣ヲ呈セルコトヲ其ノ主要ナルモノトス、即チ鐵道輸送ハ東海道線並ニ中央線ノ一時的杜絶ヲ來セルト輸送ヲ開始後震災地ノ需要大ナルトニ因リ一時ハ滯貨四十萬噸ト註セラレ年内ニ一掃セラレシ一宮驛ヲ除キテハ名古屋、豊橋、岡崎、半田等縣下主要驛ハ多大ノ滯貨ヲ包容シ商取引決濟上至大ノ損害トヲ地方産業ニ與ヘタリ、翻テ海運界ノ狀況ヲ見ルニ、名古屋港及半田、武豊兩港蒲郡附近ヨリ復興材料ヲ京濱ニ運送スルモノ多ク、其數莫大ニシテ此等ノ地方ハ爲メニ好影響ヲ受ケ般賑ヲ極メタリ、以下是等ノ狀況ニ關スル大要ヲ記述スヘシ

一、陸運

本縣下ハ鐵道ノ管區ニツニ分レ(一)大府以西ハ名古屋鐵道營業所ノ區域ニ屬シ(二)刈谷以東ハ靜岡鐵道營業所ノ區域ニ屬ス、而シテ震災ハ其等鐵道系統ニ至大ノ影響ヲ與ヘ、貨車ノ配給狀況ヲ一變シ爲ニ各驛ノ貨物發著噸數ニ影響ヲ與ヘタリ

貨物發著表

名古屋 一宮 豐橋 岡崎	八 月		九 月	
	發	著	發	著
	三六、二〇八噸	四六、五六六噸	三五、六七二噸	四六、二二五噸
	二、〇五八	七、一六三	一、九一七	六、五九五
	六、〇一〇	一三、四二〇	五、二九九	九、二八四
	五、〇二五	七、〇六四	四、四五八	五、〇三一

即チ貨物ノ東京方面、東北、北陸及關西方面ヘノ輸送ハ各種ノ商業事情ニヨリ手控ヘタルモノアルニ拘ラス、而モ送荷ハ至難ヲ極メ又送荷スルモ豫期ノ時日ニ到達セス爲メニ時期ヲ失シタルコト少ナカラス、而シテ一面食糧、被服等ノ必要材料ノ注文ハ輻輳シ、中央、北陸兩線ノ迂回線ヲ利用スルモノ並ニ海運ヲ利用スルモノヲ生シ之ト共ニ他方ニハ管内私設鐵道ノ營業ヲ刺戟シ、尾西瀨戶、愛知、西尾、豐川ノ諸鐵道會社ハ競テ貨車ヲ新造シタリ

滯貨ノ數量固ヨリ日々異動アルモ名古屋驛ハ十月十六日四九、六〇〇噸、一宮驛ハ十月中旬一、四〇〇噸、尾西鐵道沿線ハ十二月下旬一、七〇〇噸、岡崎驛ハ十月中旬二、二八九噸、半田驛ハ十二月十八日四、五六九噸ノ最高記録ヲ示シタリ、其ノ後漸次之カ一掃ニ努力シツ、アリ
今名古屋鐵道營業所管内ノ發著噸數ヲ示セハ左ノ如シ

八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	發 送 噸 數	
					十 一 年	十 二 年
八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	到 著 噸 數	
一九二、五五四噸	一八二、四四二	一九二、四八七	二一一、三七三	二一六、四六九	一七三、八一九	二二〇、四〇五
二二七、一八二噸	一九二、九八一	一九〇、三四一	一九二、八五二	二三六、三七七	一六九、九四三	一九七、四一七
					一六七、六七〇	二〇三、八九三

十一月

一九一、四一八

一七四、五〇七

十二月

二〇六、〇一四

二一〇、三二三

二、海運

海運業ハ震災ノ爲メ復興材料、衣食品等ノ注文殺到シタルト鐵道輸送ノ困難トニヨリテ好影響ヲ受ケ、名古屋、武豊蒲郡等ノ港灣就中名古屋港ハ般賑ヲ極メ震災救護品ヲ始メ衣服食糧建築用材等ノ送荷ヲ初メ又横濱港ニ入港ノ豫定ナリシ外國ヨリ輸入セシ石炭、木材ハ何レモ陸揚ノ方向ヲ變シテ名古屋港ニ入荷セシモノ多ク九月十四日頃ニハ港内ニ木材船雜貨船ノ繫留スルモノ多ク港内狹隘ヲ感シ港外ニ滞船スルモノ多キニ至レリ、九月十四日ノ調査ニ依レハ港内ニ荷役スル船數一九艘港外ニ繫船セ

ルモノ十二艘アリタリ

八月、九月繫船數

出入船舶種別

船種	入		港		出		港	
	八月	九月	八月	九月	八月	九月	八月	九月
隻數	二六	二〇三	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
總噸數	四〇九、二七七	四二六、三四〇	三三三、四〇九	三三三、四〇九	三三三、四〇九	三三三、四〇九	三三三、四〇九	三三三、四〇九
隻數	一九一	一八二	一九五	一八二	一九五	一八二	一九五	一八二
總噸數	三九一、七九一	三二一、一四一	三三三、四〇九	三三三、四〇九	三三三、四〇九	三三三、四〇九	三三三、四〇九	三三三、四〇九
隻數	二五	二二	二五	二二	二五	二二	二五	二二
總噸數	五九、四八六	一一五、一九九	三七、一八三	一一五、一九九	三七、一八三	一一五、一九九	三七、一八三	一一五、一九九
隻數	二二	一〇	二二	一〇	二二	一〇	二二	一〇
總噸數	二、七五九	一、四九〇	三、二一〇	一、四九〇	三、二一〇	一、四九〇	三、二一〇	一、四九〇
隻數	一八	一八	二〇	一八	二〇	一八	二〇	一八
總噸數	三、三六三	二、五四四	二、四八九	二、五四四	二、四八九	二、五四四	二、五四四	二、五四四
隻數	五	△八	△四	七二	△四	七二	△四	七二
總噸數	三九六	一、〇五四	七二	一、〇五四	七二	一、〇五四	七二	一、〇五四
隻數	三三	五、四九七	二四	五、四九七	二四	五、四九七	二四	五、四九七
總噸數	二、七五九	一四、三七五	三、二一〇	一四、三七五	三、二一〇	一四、三七五	三、二一〇	一四、三七五
隻數	二二	五、五三三	二二	五、五三三	二二	五、五三三	二二	五、五三三
總噸數	五九、四八六	八一、七八九	三七、一八三	八一、七八九	三七、一八三	八一、七八九	三七、一八三	八一、七八九
隻數	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三
總噸數	五九、四八六	八一、七八九	三七、一八三	八一、七八九	三七、一八三	八一、七八九	三七、一八三	八一、七八九
隻數	一九一	一〇三、四七七	一九五	一〇三、四七七	一九五	一〇三、四七七	一九五	一〇三、四七七
總噸數	三九一、七九一	一〇三、四七七	三三三、四〇九	一〇三、四七七	三三三、四〇九	一〇三、四七七	三三三、四〇九	一〇三、四七七
隻數	二五	七、八四七	二五	七、八四七	二五	七、八四七	二五	七、八四七
總噸數	五九、四八六	七、八四七	三七、一八三	七、八四七	三七、一八三	七、八四七	三七、一八三	七、八四七
隻數	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三
總噸數	五九、四八六	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三
隻數	一九一	五、五三三	一九五	五、五三三	一九五	五、五三三	一九五	五、五三三
總噸數	三九一、七九一	五、五三三	三三三、四〇九	五、五三三	三三三、四〇九	五、五三三	三三三、四〇九	五、五三三
隻數	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三
總噸數	五九、四八六	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三
隻數	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三
總噸數	五九、四八六	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三
隻數	一九一	五、五三三	一九五	五、五三三	一九五	五、五三三	一九五	五、五三三
總噸數	三九一、七九一	五、五三三	三三三、四〇九	五、五三三	三三三、四〇九	五、五三三	三三三、四〇九	五、五三三
隻數	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三
總噸數	五九、四八六	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三
隻數	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三
總噸數	五九、四八六	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三

合計	帆船		汽船		合計	帆船		汽船	
	本年	前年	本年	前年		本年	前年	本年	前年
隻數	六、一四八	五、七四五	二六	一九一	二〇	一九五	二〇	一九五	
總噸數	五三、三六〇	四五、六三一	四〇〇、五九二	三三三、四〇九	四〇〇、五九二	三三三、四〇九	四〇〇、五九二	三三三、四〇九	
隻數	五、五三三	五、五三三	一九五	一八二	一九五	一八二	一九五	一八二	
總噸數	一〇三、四七七	一〇三、四七七	三三三、四〇九	三三三、四〇九	三三三、四〇九	三三三、四〇九	三三三、四〇九	三三三、四〇九	
隻數	三三三	三三三	二五	二二	二五	二二	二五	二二	
總噸數	七、八四七	七、八四七	三七、一八三	一一五、一九九	三七、一八三	一一五、一九九	三七、一八三	一一五、一九九	
隻數	五、九〇九	五、九〇九	二四	一〇	二四	一〇	二四	一〇	
總噸數	一一一、三三四	一一一、三三四	三、二一〇	一、四九〇	三、二一〇	一、四九〇	三、二一〇	一、四九〇	
隻數	五、五三三	五、五三三	二〇	一八	二〇	一八	二〇	一八	
總噸數	一〇三、四七七	一〇三、四七七	二、四八九	二、五四四	二、四八九	二、五四四	二、四八九	二、五四四	
隻數	三三三	三三三	△四	七二	△四	七二	△四	七二	
總噸數	三九六	三九六	七二	一、〇五四	七二	一、〇五四	七二	一、〇五四	
隻數	三三	三三	二四	五、四九七	二四	五、四九七	二四	五、四九七	
總噸數	二、七五九	二、七五九	三、二一〇	一四、三七五	三、二一〇	一四、三七五	三、二一〇	一四、三七五	
隻數	一八	一八	二〇	五、五三三	二〇	五、五三三	二〇	五、五三三	
總噸數	三、三六三	三、三六三	二、四八九	八一、七八九	二、四八九	八一、七八九	二、四八九	八一、七八九	
隻數	五	五	△四	七二	△四	七二	△四	七二	
總噸數	三九六	三九六	七二	一、〇五四	七二	一、〇五四	七二	一、〇五四	
隻數	三三	三三	二四	五、四九七	二四	五、四九七	二四	五、四九七	
總噸數	二、七五九	二、七五九	三、二一〇	一四、三七五	三、二一〇	一四、三七五	三、二一〇	一四、三七五	
隻數	二二	二二	二二	五、五三三	二二	五、五三三	二二	五、五三三	
總噸數	五九、四八六	五九、四八六	三七、一八三	八一、七八九	三七、一八三	八一、七八九	三七、一八三	八一、七八九	
隻數	二五	二五	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三	
總噸數	五九、四八六	五九、四八六	三七、一八三	八一、七八九	三七、一八三	八一、七八九	三七、一八三	八一、七八九	
隻數	一九一	一九一	一九五	五、五三三	一九五	五、五三三	一九五	五、五三三	
總噸數	三九一、七九一	三九一、七九一	三三三、四〇九	五、五三三	三三三、四〇九	五、五三三	三三三、四〇九	五、五三三	
隻數	二五	二五	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三	
總噸數	五九、四八六	五九、四八六	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	
隻數	二五	二五	二五	五、五三三	二五	五、五三三	二五	五、五三三	
總噸數	五九、四八六	五九、四八六	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	三七、一八三	五、五三三	

備考 △ハ減

斯クノ如キヲ以テ名古屋港ニ於ケル海運業ハ一時ニ旺盛ヲ極メ東京其他へ貨物ヲ送荷セントスル申込踵ヲ接シ仲仕其他ノ労働者モ相當利益ヲ得タリ、尙名古屋港出入貨物ノ狀況ヲ明カニスル爲メ貿易ニ關スル統計ヲ附載センニ

內國貿易移出額

品名	八月		九月	
	數量	價格	數量	價格
米	三七三噸	四九,五〇〇圓	二八五噸	三五,九二三圓
砂	一五六	五一,七〇七	五六六	二一九,五〇〇
綠	九,五八一	二九八,一五五	六一	五九,一二七
木	一,二六七	六六,二五五	八,六一九	二七九,六四〇
板	三,五五一	六二二,三〇〇	一,三三五	八五,四六四
陶	五,九〇六	九三,九七一	一,九三五	二六〇,一八八
磁	一二,八二四	五七二,〇〇七	五,六五九	九〇,七四七
其他	三三,六五八	一,八五三,八九五	一四,五九五	一,〇四四,四三一
合計			三三,〇五五	二,〇七五,〇二〇

內國貿易移入額

品名	八月		九月	
	數量	價格	數量	價格
米	八,〇八六噸	一,一九八,八六五圓	三,一八二噸	五二七,四〇八圓

外國貿易輸出額

品名	八月		九月	
	數量	價格	數量	價格
砂	四三〇	一二〇,五五〇	一,一六四	四五四,〇六一
醬油	一,一八	一三四,一九四	一,六二六	一九五,九七五
鮮魚及干鹽魚	三九四	一七二,八九八	七一二	一八四,二二一
綿織物	四四二	一九九,一二〇	一六四	八三,四九〇
綠	三〇三	二七八,七七五	一八二	一七四,六三八
木材	七八,〇一二	二,一四八,八九〇	七四,九二一	二,〇三二,二三二
セメン	六三八	二二二,八九三	五,五二六	一九三,五七一
煉瓦	六,二七五	一三一,八六二	四,九九二	一〇五,〇一八
石炭	五六,七七八	九二二,一一八	五一,〇二四	八二一,八九〇
木炭	三,一一〇	一一八,一五一	二,二七六	八六,四九五
其他	六七,四六九	一,六三九,〇七五	五五,三九五	一,六五八,二八四
合計	二二八,七九六	七,二九七,三九一	二〇一,一六四	六,五一七,二八三

品名	八月		九月	
	數量	價格	數量	價格
綿織物	四四〇噸	四四九,一三五圓	一八七噸	一七五,七九七圓
綿糸	二一四	二八五,三九七	三四七	四一七,八九〇

荷造箱類 陶磁器 其他 合計	八 月		九 月	
	數量	價格	數量	價格
荷造箱類	二,四三六	一,二六,二六四	一,七七〇	一〇七,一七九
陶磁器	七,五五七	一,〇〇〇,一〇七	八,六二八	一,三八〇,一二六
其他	一〇,八七七	三,三三三,三三三	一,八九〇	三五二,一二六
合計	一二,五二四	二,一八四,二一六	一二,八二二	二,四三三,一一八

外國貿易輸入額

米及 小麥 豆 木材 石炭 其他 合計	八 月		九 月	
	數量	價格	數量	價格
米及	二五一噸	二〇,四六三	一,〇五八噸	八六,八〇一
小麥	七,三八三	七一九,一二四	七九六	七六,九二八
豆	六四	五,八二〇	一,五〇六	一二七,五八八
木材	二七,五一四	八七六,二三一	三三,二一七	一,一二〇,一八三
石炭	二六,四七七	三八〇,七六四	一一,二六九	二〇五,九八二
其他	三,五五〇	三一六,九八五	六,五八〇	三九二,二五九
合計	六五,二三九	三,三一九,三八七	五四,四二六	二,〇〇九,七四一

名古屋市

(十一月二十日 商業會議所)

運輸機關ハ東京市ヲ中心トシテ配置セラレアルヲ以テ一度今回ノ震災ニヨリ夫等機關ニ故障ヲ生ス

ルヤ帝都トノ連絡ヲ斷タレ之レカ救済ニ多大ノ苦心ヲ要シタリ

名古屋地方ト帝都トノ交通ハ陸運ニ依ルコト多ク海運ニ依ルコトハ比較的僅少ナリシカ震災ニ因リ鐵道ノ不便トナルヤ物資ノ輸送ニモ多大ノ支障ヲ來シ殊ハ災害地ニ對スル急需品ノ輸送ニ關シテハ名古屋港ヨリ船舶ニ積込ミ輸送スルノ他ナキニ至リ爲ニ名古屋港出入船舶數ハ未曾有ノ増加ヲ示シ碇船船一日二十隻前後ヲ算スル盛況ヲ見タリ

鐵道貨物ノ輸送力ノ減退ハ關東地方ニ對スル物資ノ輸送ニ多大ノ支障ヲ來シタルノミナラス震災後新ニ商取引ノ開始サレタル東北地方、信越地方へ商品ヲ發送スル上ニ於テモ不便甚シク爲ニ商談ノ成立ヲ妨ケツ、アルモノ少カラサルカ如シ

半田町

(十一月二十四日 商業會議所)

東海道線ノ破壞ノ爲メ九、十ノ二ヶ月ハ殆ント休業状態ニアリタリ、十月下旬ニ至リ漸ク全通シタリト雖モ貨車不足ノ爲メ輸送圓滑ニ行ハレス取扱高ハ例年ノ二分ノ一ニモ達セス、海運ハ活況ヲ呈シ運賃ハ二乃至三倍トナレリ

一般交通ニハ大ナル支障ナシ

豊橋市

(十二月十七日 市役所
十二月二十二日 商業會議所)

運輸交通機關不圓滑ノ爲メ滯貨激増シ一時混亂状態ヲ呈シタリ
旅客ノ如キモ九月二十五日頃迄ハ其ノ交通全ク行ハレサリキ

岡崎市 (十一月十九日 岡崎商業會議所)

鐵道專屬ノ運輸業者ニアリテハ關東行ハ一時杜絶シ關西行ハ貨車拂底シ滯貨山積ノ状態ニシテ何等施
ス道ナカリシカ十月中旬ニ一部ノ開通ヲ見下旬ニ至リ全通シ稍疏通シタルモ商取引ノ旺盛ニ連レ滯荷
増加ノ一方ニテ今尙此ノ狀況ニアリ、西尾鐵道モ相當ニ影響ヲ受ケタリ

一宮市 (十一月十九日 市役所)

災害後九月中ハ殆ント救恤品並ニ必需品ノミノ輸送ニシテ關東地方並ニ東北地方ノ貨物ハ中央線經
由又ハ海運ニ依リ輸送シタリ、十月中旬東海道線開通シタルモ貨車ノ配給僅少ニシテ輸送ハ到底覺束
ナク現在ニ於テハ依然海運並ニ中央線ヲ經由シ其ノ幾分ヲ補ヒツ、アリ

岐阜縣 (十二月十四日)

本縣ノ運輸ハ大部分鐵道ニ依頼スルノ外途ナカリシカ這般ノ震災ニヨル鐵道ノ破壊ハ實ニ商取引ノ閉

鎖ヲ來シ一般貨物ノ停滯夥シク大打撃ヲ蒙リタルモ漸次恢復シ、アリ
今岐阜驛發着貨物乗降客ヲ見ルニ左表ノ如シ

月	貨物		旅客	
	發送	到着	乗車	降車
八月	六、六一二 <small>噸</small>	二二、三六七 <small>噸</small>	一四一、六五五 <small>人</small>	一三八、〇四五 <small>人</small>
九月	五、一〇一	二一、一〇八	一二二、四九八	一一七、九九〇
十月	七、八二八	一九、六一一	一三八、四三三	一三六、七一五

最近ニ於テモ尙貨車ノ配給ハ圓滑ナラス

交通一時杜絶ノ結果旅客貨物ノ輻輳ハ言語ニ絶セルモノアリキ

滋賀縣 (十二月二十六日)

財界不況ノ折柄震災ノ爲メ益々其度ヲ加へ乗客及貨物ハ多少減少セリ然レトモ震災地行ハ省線運輸圓
滑ナラサルト物資増加ノ爲メ滯貨尠カラス

大津市 (十二月二十六日 市役所)

貨車ノ配給不足ト不圓滑トノ爲メ貨物輻輳シ運送業者ハ多大ノ苦痛ヲ感シタリ

市内ニ於ケル乗客用自働車數輛震災地へ向ケ賣却セラレタリ

三 重 縣 (十二月二十八日)

東海道線及中央線ノ鐵道故障ト戒嚴令ノ布告等ニ依リ交通ノ自由ヲ制限セラレタルニ震災地行輸送物資増加ノ爲メ輸送澁滯シ滯貨甚シク運送業者ハ已ヲ得ス引受ヲ制限スルニ至リタルカ今日ニ於テモ尙之ヲ一掃スルコト能ハス荷主ハ不尠損害ヲ蒙リタリ

船舶及貨物自働車ハ非常徵發令ニ依リ徵發セラレタルモノ多キ爲メ貨物ノ輸送遲延シ殊ニ紀州ニ接セル地方ニ於テハ需要殺到セル木材ノ搬出ニ苦シミ海岸線ニ於テハ船腹不足ノ爲メ回遭賃ハ五割高ヲ唱ヘツ、アリ

津 市 (十二月二十四日 市役所 十一月十九日 商業會議所)

震災前ニ於ケル鐵道軌道等ノ營業成績及輸送狀態ハ頗ル圓滑順調ナリシモ震災後東海、中央線ノ不通戒嚴令ノ布告等ニ依リ旅行ノ自由ヲ閉塞シ旅客ヲ減シタル一方貨物ノ激増ヲ來セルニ反シ貨車ノ配給之レニ伴ハサル爲メ輸送ハ澁滯シ滯貨少ナカラス運送業者ハ已ムヲ得ス引受ヲ制限シ震災地行キニ對シテ殊ニ然リ此ノ狀況ハ今日ニ至ルモ尙一掃スルニ至ラス

一般ノ交通ハ格別ノ影響ナシ

京 都 市 (十一月二十日 商業會議所 大正十三年一月十四日 市役所)

震災ノ報傳ハリシ後一兩日ハ混沌裡ニ過セシモ被害ノ狀況漸次判明スルニ及ヒ震災地方面行貨物ハ陸運至難ニシテ水運ニ依ルノ利アルヲ認メタルモ救恤品カ阪神ノ船舶ニテ輸送セラレタル關係上一般貨物ハ大ナル苦痛ヲ感シタリ

北陸線迂回鐵道輸送開始セシ頃モ普通貨物ハ輸送困難ナリキ

爾後配貨車不十分ニシテ滯貨漸増ノ狀ニアリ

各種出版物ノ如キ東京ニ大部分ノ出版業者ヲ有シ居ル關係上這回ノ貨車不足ニ輸送モ意ノ如クナラス當業者ハ大ナル打撃ヲ受ケタリ

從來本市ハ日向産ノ木炭ヲ使用シツ、アリシニ震災ニヨリ輸送意ノ如クナラサル爲メ丹波産ヲ以テ之レカ補充ヲ爲シ居ル狀態ナリ

堺 市 (十二月二十四日 市役所)

鐵道ノ故障久シキニ亘レル爲メ此ノ方面ニハ大ナル影響ヲ見タルモ、大阪仕向ノ小貨物陸送ハ却テ之レカ爲ニ好況ヲ來セリ

奈良縣 (十二月二十八日)

影響ナシ

和歌山縣 (十二月二十五日)

輸送物資ノ増加セルニ不拘鐵道ノ故障ニ依リ輸送力減退シ各地方共滯貨山積セリ而シテ海運業ハ著シク活況ヲ呈セルニ不拘鐵道ハ却テ閑散ノ状態ニアリ又旅客ハ震災以來其數ヲ減セリ

和歌山市 (十一月十九日 商業會議所)

鐵道運輸圓滑ナラス滯貨益々増加シ需給關係變調ヲ呈セリ

兵庫縣 (十二月十九日)

大震災ノ爲メ陸上交通機關ノ杜絶シタルヨリ震災地ニ向フ旅客及ヒ貨物ハ一ニ海路ニ依ラサルヘカラスアルヲ以テ日本郵船株式會社ハ卒先シテ從來長崎上海間航路ニ使用中ノ優良船二隻ヲ回航シテ神戸東京間ノ航海ニ充テ専ラ旅客及ヒ貨物ノ輸送ニ努ムルコト東海道鐵道全線ノ開通マテ二ヶ月餘ニ亘リ此ノ間ニ於テ神戸上陸ノ罹災者ノミニテモ四萬四千人ヲ算セリ

其他ノ内外社船及社外船モ亦此ノ航路ニ從事セル者尠ナカラス又震災地向ケ救援物資ハ神戸阜頭ニ集積セラル、モノ極メテ多ク之レカ輸送ニ船腹ノ不足ヲ告ケ十月下旬ニ至リ稍々一段落ヲ告クルニ近ツキ一般貨物ハ東海道鐵道ノ未タ開通セサルヲ以テ頗ル多ク且外國貿易ノ旺盛ナルヨリ運賃ノ急騰ヲ促シ加之石炭ノ荷動キ漸次増加スルト積取期ノ終了近キ木材船腹ノ需要急ナル等ヨリ近海運賃及備船料ハ漸騰ノ傾向ヲ示シ遠洋大型船ハ復興材料ヲ見越シ長期備船ノ引合瀕出スル等海上運輸業ハ近年稀ニ見ル好況ヲ呈シタリキ神戸海運組合ノ調査ニヨレバ本年九月一日ヨリ十月三十日ニ至ル二箇月ニ於テ阪神二港ヲ起點トシテ東京、横濱ニ定期回航シタル社外船ノ主ナルモノハ凡十五隻ニシテ二十萬五千七百三十六噸ニ上リ殊ニ阪神ニ於ケル建築請負業者ニシテ自ラ備船シ材料ヲ積載輸送シタルモノ三十七隻ヲ算シタルハ注目ニ値スヘシ而シテ同方面ニ對スル出貨物ハ引續キ益増加ノ趨勢ナリトス、今近海及東洋方面ニ於ケル主要運賃及備船料ニ就キ震災前後ノ變動ヲ調査スルニ先運賃ヲ舉クレハ左ノ如シ

航路	貨物	單位	震災前平均	十月平均
若松 伊勢	石炭	噸	二、二五〇	三、五〇〇
若松 横濱	同	同	一、九〇〇	四、〇〇〇
若松 上海	同	同	一、九〇〇	二、二〇〇

室蘭	橫濱	石炭	二、二五〇	三、〇〇〇
大連	同	粕	一、一六〇	二、二七〇
同	同	同	一、一四〇	一、一七〇
樺太	内	炭	一八五、〇〇〇	二六〇、〇〇〇
同	司	同	三、〇〇〇	三、七〇〇
同	同	同	三、六〇〇	四、三〇〇
同	同	同	三、六〇〇	四、二〇〇
同	同	同	三、六〇〇	四、二〇〇

四〇

又備船料ヲ示セバ次ノ如シ

噸數	震災前平均	十月平均	噸數	震災前平均	十月平均
一千噸未滿	四、五〇〇	五、五〇〇	五千噸以上	二、四〇〇	二、七〇〇
一千噸以上	三、五〇〇	四、五〇〇	六千噸以上	二、〇〇〇	二、四〇〇
二千噸以上	三、三〇〇	四、〇〇〇	七千噸以上	二、〇〇〇	二、四〇〇
三千噸以上	三、〇〇〇	三、五〇〇	八千噸以上	一、九〇〇	二、一〇〇
四千噸以上	二、七〇〇	三、〇〇〇	九千噸以上	一、八〇〇	二、〇〇〇

翻テ陸上ノ交通状態ヲ觀ルニ例年下半期ノ九、十月ノ交ハ旅客貨物ノ移動活氣ヲ呈スルヲ常トスレトモ本年ハ此ノ繁忙季ニ當リ大震災ニヨリ東海道鐵道不通ノ爲メ海路ニヨルモノ激増シタレトモ陸路、

中央北陸線等ノ迂回線ヲ利用スルモノ一時ニ殺到シ、平時ノ數十倍ヲ示シ殊ニ震災地ニ於ケル物資ノ需要激増シ從來ノ記録ヲ突破セリ、即チ神戸鐵道局管内ヨリ東京局行出貨數ハ十月初ニ於テ三千噸同月末ニ於テ三萬四千噸ニシテ前年同期ニ比シ三倍餘ノ増加ヲ示セルモ牽引力ニ制限セラレ之ニ對應スル能ハス未曾有ノ混雜ヲ極メタリシカ現今ニ於テハ旅客輸送ニ於テハ稍々緩和セラレタルカ如シト雖貨物ニ在リテハ今尙滯貨多ク鐵道當局ノ大ニ苦心スル所ナリトス

神戸市

(大正十二年十二月廿四日)

震災前ニ於ケル當地海運界ハ備船料低落ニ次クニ低落ヲ重ネ全ク悲況ノ裡ニアリシカ震災後京濱地方へ積送スヘキ荷物激増ノ結果俄カニ活氣付キ小型船ノミヲ以テハ到底追付カス大型船ヲモ各社舉ツテ此方面へ主力ヲ注クニ至リテモ尙不足ヲ告クル有様ニ運賃著シク暴騰シ最初噸當リ五圓以下(震災前時々三圓五十錢位ニナリシコトアリ)ナリシモノカ忽チニ拾圓以上トナリタルモ芝浦方面ノ荷揚機關カ不充分ナル爲ニ荷捌キ意ノ如クナラス空シク繫船スルノ止ムヲ得サルニ至リ從テ船主側ニ於テハ運賃ノ騰貴以上ニ繫船料其ノ他ノ費用アリテ收支償ハス反ツテ芝浦行積送ヲ喜ハサルニ至リ目下ハ備船ノミニ殆ント限ラル、ニ至リ運賃積送契約ハ跡ヲ絶ツニ至リヌ而シナカラ此ノ備船トテモ船主側ニ取リテ餘リ面自キモノニアラサル折柄芝浦方面行ノ如キ内地航路ヨリモ他方面ニ船カ著シク減少シ從ツ

行政廳送出ノ救助物品應急諸材料ノ無賃輸送ヲ開始シ郵、商兩社ト連繫シテ之カ送達ニ万遺漏ナキヲ期シ右ノ輸送一段落ヲ告ケ漸次普通物資ノ移動ヲ見ルニ逮ンテ無償救恤品ハ無賃、日常必需品、復舊用品ハ運賃五割減ヲ以テ取扱フコト、シ九月下旬ヨリ十一月末日ニ亘リ繼續施行セル次第ニシテ十月
 中ニ於ケル五割減扱貨物發送噸數ハ概算一六三六噸ヲ示シタリ
 次ニ十月中ノ貨物運輸成績ヲ概括セハ第一表ノ如ク使用貨車數ニ於テハ本年ハ寧ロ前年ヲ凌駕シタリ
 シカ收入ニ於テハ東海道中央線殆ント全月不通ナリシ結果貨物輸送距離短カク加フルニ無賃扱、五割減扱等ヲ斷行セルタメ一割四分ノ著減ヲ示シタリ尙注目スヘキハ前半月ハ貨車潤澤ニシテ出貨モ小康
 狀態ヲ支持シタリシカ京濱方面ニ發送セル貨車カ同方面混亂ノタメ少シモ歸着セス當局管内ノ現在車
 ハ次第ニ減少トナルニ反シ出貨ハ逐日躍増シ後半月ハ貨車ノ激減ト在貨ノ累増トヲ招來シ在貨數量ノ
 如キ月ヲ平均スルモ十一萬噸ヲ突破シ前年ニ倍加スルノ狀況ヲ示現シタリ

岡山驛乘降人員及賃金前年比較表

年次	項目	乘車人員	降車人員	客車收入
大正十二年九月		一六五、七三〇	一六五、九七四	一〇七、二二四、六六
前年 同 月		一七七、三七二	一七五、六一二	一〇四、三四四、四六
增 減		△ 一一、六四二	△ 九、六三八	〇 二、八八〇、二〇

備考 九月ニ於テ見ルニ東都大震災ノタメ東海道線不通トナリシ故乘降人員ニ於テ二分方減少セ
 リ收入ノ一分五厘増加セルハ團體ヨリ個人ノ旅客増加セシ爲メナリ

年次	項目	乘車人員	降車人員	客車收入
大正十二年十月		一九八、七九四	一九二、二一五	一四六、二六〇、八八
前年 同 月		二〇四、六二九	一九四、八〇二	一四三、六七一、四一
增 減		△ 五、八三五	△ 二、五八七	〇 二、五八九、四七

備考 前年ニ比シ乗車人員二分五厘減降車人員一分三厘減ヲ示セルハ團體及回数ノ減少ニシテ普
 通客ハ之レニ反シテ増加シ居レリ而シテ旅客收入一分八厘增收ヲ呈セリ右ハ上旬ニ於テ東
 京方面行旅客ハ東海道線ノ不通ノ爲メ徒歩連絡並ニ中央線迂回等ノタメ自然足溢リ氣味ア
 リタル所下旬東海道線全通ヲ見ルニ至リ俄ニ激増シタルニ由ル

貨物運輸概況 (一日平均)

九月	過剩貨車數		使用貨車數		概算貨物發送噸數		概算貨物收入(圓)		在貨噸數
	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	
九月	六二九	一三四	二六四二	二七七二	二二三〇三	二三一七二	七四八六二	九四八二六	四五四四八
前年	六二九	一三四	二六四二	二七七二	二二三〇三	二三一七二	七四八六二	九四八二六	四五四四八
本年	六二九	一三四	二六四二	二七七二	二二三〇三	二三一七二	七四八六二	九四八二六	四五四四八
前年	六二九	一三四	二六四二	二七七二	二二三〇三	二三一七二	七四八六二	九四八二六	四五四四八

十月	本年	五八	二八六三	二三八三四	八六一六四	一一五九六二
前年	—	二八二七	二三四八六	九七九九七	五三五九三	

備考 鐵道部内用品ハ有貨扱ノ外加算セス
關東震災ト岡山驛

岡山市ニ於テハ震災勃發以來罹災民救護ノタメニ市救護部出張所ヲ岡山驛ニ設置シ罹災民ノ救護ニ當リシカ去十月三十日ヲ以テ撤廢シ右期間内ニ於ケル救護成績ニ就テ市社會課ノ調査ニ依レハ罹災民ノ岡山驛通過總人員ハ三萬六千三百四十人ニシテ内辨當ヲ給與シタルモノ九千四十人、宿泊シタルモノ九十六人、半泊シタルモノ十六人、一時休養シタルモノ三百二十二人此内傷病者ヲ收容救療シタルモノ三人、手當ヲ施シタルモノ千八百八十九人ナリ、尙岡山驛ニ下車シ再ヒ罹災地ヘ歸行證明書ヲ交付シタルモノ二十一人ナリ

廣 島 縣 (十三年一月十七日)

關東地方ヘ移入スル貨物ノ輸送力減退ノ爲メ貨物ノ澁滯ヲ來シ取引ノ敏活ヲ阻害セルコト甚大ナリ

廣 島 市 (十一月二十七日 市役所 十一月十九日 商業會議所)

震災直後多量ノ救援用及復興材料ノ輸送激増セルニ際シ東海道及中央線ノ破壊ニヨリ西日本ト震災地

方トノ鐵道輸送ハ唯一ノ信越線ニヨルノ外ナク加フルニ東京市内各驛及貨車ノ燒失破壊等ニヨル輸送能力ノ減退ト倉庫及小運送機關ノ罹災ニヨリ鐵道輸送ハ全ク停頓シ其後前記兩線ハ相前後シテ回復シタルモ沙留、秋葉ヶ原等ニ於ケル貨物ノ引取遲々タルカ爲メ從來本市ト東京市間ノ貨車往復ハ三日間ヲ要シタルモノ震災後ハ平均七日間ヲ要スル爲メ延テ賣買當事者共價格ノ變動、貨物損傷等ニヨリ思ハサル損失ヲ蒙ルコトアリ、加フルニ資金回收ノ遲延ハ生産能率ヲ減退スルノミナラス鐵道省ノ損失亦些少ニアラス、今貨車一日一輛平均三十圓ノ運輸收入アルモノト仮定スルトキハ左表ノ如ク

$$30,000 - 30,000 \times 3 = 14,144$$

三日間ニ往復スル場合ト七日間ヲ要スル場合トハ一日ニ付十四圓十四錢即五七%ノ收入減ヲ餘儀ナクセラル、ノ狀況ナリ、之カ解決ハ當業者鐵道省共ニ利スル所アルナルノミナラス復興事業ノ進捗ヲ計ル所以ナレハ兩者一致協力シテ輸送力ノ回復ヲ計ラサル可ラス、今本月十四日現在ノ本市關係各驛ノ滯貨狀況ヲ見ルニ左ノ如シ(單位噸)

廣 島 驛	震災地内	其他ノ地方	計	震災地行貨物ノ主ナルモノ
二、〇五五	一、〇〇〇	三、〇五五		電柱、木材、木炭
横 川 驛	二六〇	一七〇	四三〇	木材、疊表
巳 斐 驛	一〇〇	一九〇	二九〇	鐘詰、疊表

藝備線各驛

合 計

一、三四五
三、七六〇
二、二五六
六、〇一六

八九六
二、二四一

木材、木炭

四八

鐵道當局ハ極力輸送力ノ充實ヲ計リツ、アルモ如何セン東京市各驛ニ於ケル貨車ノ停滯ト小運送機關ノ不備不足トハ連日發驛ニ於テハ貨車ノ出勝、入不足ノ現象ヲ呈シ到着驛ニ於テハ貨車ヲ以テ倉庫ニ代用スルカ如キ狀況ニシテ彌カ上ニ輸送ヲ困難ナラシメツツアルニ拘ラス以上三驛ニ於ケル滯貨比較的僅少ナルハ各驛當局ノ措置宜シキヲ多トセサルヲ得ス、唯藝備鐵道全線ヲ通シ二千二百餘噸ノ滯貨ハ從來連帶輸送ノ貨車五十輛ヲ十二輛即四分ノ一以内ニ制限セラレタル結果ニシテ滯貨ノ六割カ震災地向ノ復興材料及生活必需品ナルニ顧ミ地方産業ノ爲メニ震災地復興ノ爲ニモ遺憾トスヘキナリ
因ニ九、十兩月中市内三驛ニ於テ取扱ヒタル震災地貨物ハ左記ノ通り

十二年九、十月分

前年同日分

比較(△印減)

生 牛	三八九頭	三五八頭	三一頭
鐘 詰	三二三噸	二四七噸	七六噸
木 炭	七三	七三	七三
木 材	三六七	三六七	三六七
釘	一六	一六	一六

壘 表	八一		八一
家 具	一三		一三
兵 器	五〇		五〇
綿 物	七八	一〇	六八
鑲 物		八三	八三
和 洋 紙		二五三	△ 二五三
木 皮 屑		二五五	△ 二五五
和 洋 酒		一二	△ 一二
其 他	六〇九		六〇九
計	一、九九九	一、二一八	七八一

復興材料ノ輸送ノタメ從來多量ノ取引ヲ見タル鑛物、和洋紙、木皮屑等ノ發送不能ノモノアルモ、木炭、木材、釘、壘表、製綿等ノ増加又ハ新ニ發送セラレタルモノアリテ前年同期ニ比シ六四%以上ノ増加ヲ見ルニ至レリ

尾 道 市

(十一月十日 市役所)
(十一月二十四日 商業會議所)

本市ハ出入貨物ノ八割ハ海運ニヨル地ナルモ船舶カ震災地ヲ中心ニ集中セラレタルコト、一面地方ノ商取引狀況ニ最モ適應セル千噸級以下ノ小型船著シク不足セルト、震災前尾道―東京間雜貨運賃噸五圓見當ノモノ一躍シテ十二、三圓ニ暴騰シタル等種々ノ障害續出シ非常ノ困難ヲ感シタリ

福山市 (十一月十九日 市役所)

運輸業ニ關シテハ震災後輸送力殆ント缺乏シ爾來恢復未タ不充分ナルヲ免レスシテ貨物ノ澁滯甚シク頗ル取引ノ敏活ヲ阻害シ自然其ノ營業成績ヲ低下セシムルニ至ルヘシ一般交通ニ關シ地方間ニ及シタル影響ハ顯著ナルモノナシ

吳市 (十二月十九日 市役所)

本市ノ商取引ハ多ク阪神地方ニアルヲ以テ貨物ノ發着モ亦同地方ニ多ク從ツテ大貨物ノ運輸上著シキ影響ヲ蒙ラサリシモ關東地方ヘ向ケ發送スル貨物ニ就テハ全ク杜絶ノ狀態ニアリテ多大ノ不便ヲ感シタリ最近鐵道開通ト共ニ其不便モ稍緩和セラレタリト雖モ未ダ復舊ノ運ビニ到ラスシテ貨車ノ配給少ナキ爲メ大貨物ノ取引上頗ル困難ノ狀態ニアリ

交通ニ就テモ震災ニ因ル影響ニヨリ不便尠ナカラサリシカ現今ニ到リテハ其不便除去セラレタルヲ以テ別ニ記スヘキ程度ノコトナシ

山口縣 (十一月二十九日)

影響ナシ

下ノ關市 (大正十三年一月十一日 市役所 十二月四日 商業會議所)

關門兩港ノ海運業ハ九月中旬以降活況期ニ入ルヲ常トスルモ今回ノ震災ニヨリ一層ノ緊張ヲ呈シタリ此ノ震災ニヨリ郵船、商船共ニ十月九日ヨリ門司芝浦間ノ不定期航路ヲ開始シタリ右海運業ノ活況ハ主トシテ鐵道輸送狀態ノ不良ニ基クモノナリ

鳥取縣 (十一月二十日)

貨物輻輳シ關東地方トノ取引困難ヲ感シタリ

島根縣 (十二月十九日)

震災ト同時ニ一般運輸機關運行杜絶ノタメ鐵道ノ如キハ救護品及寄贈品輸送ノ外一般ノ物資ハ殆ント輸送不可能トナリシ爲中ニハ其ノ輸送ヲ船舶ニ依ラムトスルモ運賃比較的多額ニ上リ且ツ不慣ノ爲メ之ヲ利用スルヲ躊躇シツ、アリシ内鐵道貨車モ漸次配給セララルニ至リ運輸業又從前ニ復セムトス

長野縣 (十三年一月十五日)

東海道線及中央本線不通ノ爲メ震災地へ輸送スル貨物及避難者ノ各地ニ歸郷スルモノハ何レモ信越線及中央線ヲ利用セル爲メ縣内各驛ノ混雜名狀スヘカラス十月中旬前記鐵道ノ全通スルニ至リ大イニ緩和セラレタルモ貨物ハ貨車ノ配給不足ノ爲メ各驛ニ堆積シ縣内産業ノ振興上大打撃ヲ受ケタリ

長野市 (十一月二十日 市役所 商業會議所)

鐵道運輸ハ罹災地へ各地方ヨリ復興材料ノ送付關係ト貨車災害ノ爲減少セルトニ原因シ各驛ノ滯貨著シク増加ス、市内運送業者ノ迷惑一方ナラス
一般交通ハ鐵道被害アリシ爲メ九月下旬迄ハ雜踏セルモ(本市ハ例年ナレハ善光寺參詣者ニテ九月中旬ヨリ十月迄ハ雜踏ヲ見ルモ)十月後以後ハ閑散ナリ

上田市 (十一月十六日 市役所)

由來當市ハ京濱地方トノ交通ヲ主トスルモノナレハ京濱地ノ震災ニヨリ交通機關ハ杜絶シ僅カニ北越方面ニ通スル一路アリシノミニシテ而カモ其ノ輸送力ハ制限セラレ極メテ微力ナリシカハ運輸業者ニ取リテハ一大痛棒ヲ與ヘラレタルモノニシテ一時ハ全ク休業狀態ナリシモ其後漸次鐵道ノ開通セラル

ルニ從ヒ恢復セラレツツアリト雖モ震災地急造家屋ニ要スル材料及衣食糧輸送ノ爲メ今尙滯貨多ク影響スル所蓋シ尠少ナラス

松本市 (十一月十九日 市役所 商業會議所)

本市ハ運輸交通共ニ京濱及關東方面トノ關係頻繁ナリシモ震災ノ爲メ東海道線並ニ中央東線不通トナリ爲ニ罹災地へノ物資ノ輸送等ハ何レモ中央線ニ依ルノ外ナキ爲メ其混雜名狀スヘカラサルモノアリシモ東海道線ノ開通ト共ニ稍々緩和セラレタリ
旋客ノ輸送ハ鐵道當局ノ苦心ノ結果混雜ノ裡ニアリテ大ナル支障ヲ見サリキ

新潟縣 (十二月十日)

震災地復舊急需品輸送ノ爲メ貨車船腹共ニ非常ナル拂底ヲ告ケ爾來各運送業者ハ山積セル滯貨ノ輸送ニ焦慮シツツアリ然レトモ現在ノ鐵道輸送能力ハ在貨ノ五分ノ一ニ足ラサルナリ、殊ニ震災當時ヨリ最近ニ至ルマテ東海道及中央線共ニ不通ノ結果關西方面ヨリ關東々北地方へノ輸送貨物ハ敦賀又ハ伏木港ヨリ海運ニテ新潟港ニ荷揚シ更ニ鐵道磐越線ニヨリタルカ如キ運輸狀況ハ混亂シ甚シキ不便ヲ招來シ縣下製糸織物其ノ他ノ製造工場ニ於テハ燃料タル石炭ノ欠乏ヲ告クルモ運輸不能ノ爲メ之カ供給

ヲ受クル能ハス休業者ヲ出シタルカ如キ、以テ當時ノ一般ヲ窺知スルヲ得ヘシ
其後東海道線ヲ始メ諸線開通シタリト雖モ地方ノ農、林、産物ノ出荷夥シク輻輳シツツアレハ鐵道貨
車ノ不足ハ實ニ想像以上ナリ

新 潟 市 (大正十三年一月二十一日 商業會議所)

震災後ヨリ引續キ貨車ノ配給不圓滑、殊ニ東海、中央兩線ノ支障ハ從來ノ輸送系統ニ甚シキ變化ヲ來
シ關西、中京方面ヨリ關東、東北地方ニ配給スル一般貨物ハ北陸線ヲ經由スルカ若ハ便船ニ依テ當港
ニ陸揚シ更ニ鐵道ニ輸送セサルヲ得サル結果トナリタル爲當地ノ滯貨ハ日々激増シ米穀、砂糖、鹽、
疊類又ハ石炭、鐵類、木材等ノ數量ハ五萬餘噸ノ多量ニ上レリ

直 江 津 市 (十一月二十六日 商業會議所)

海運ニ於テハ何等ノ影響ナカリシモ鐵道ニ於テハ貨車拂底加フルニ東海道線、中央線不通ノタメ關西
地方ノ貨物ハ全部信越線ニ殺到シ其爲土地ノ貨物ハ一モ積出シ得ス産米輸出期ニ向ヒタルモ確氷越貨
車ハ殆ト差止メノ狀況ニアリシヲ以テ止ムナク貨車ノ配給ヲ請願シタリ

右ノ狀況ナルヲ以テ空シク商機ヲ逸スルコト多ク殊ニ米穀ノ如キ相場ノ變動大ナルモノハ爲ニ利害ヲ
伴ヒ商人ヲシテ不安ヲ感セシメツツアリ

一般交通ニ於テモ鐵道ハ右ノ如クナリシヲ以テ旅客ノ乗降ハ死物狂ノ有様ニテ歸女子及小兒ハ到底汽
車ヲ利用スル能ハス又時々乗車券ノ販賣ヲ停止シタルコトアリ

富 山 縣 (大正十三年二月二十一日)

海運ニアリテハ從來、埼玉、栃木、群馬方面ノ麥作肥料タル大豆粕及魚肥類ハ橫濱港ヨリ汐留驛ニ陸
揚シタルモ岸壁破壊ノ爲メ伏木港ニ廻航シ來レルモノ多ク然モ同港ニハ他ノ廻船モ輻輳シ揚荷及輸送
力ニ制限アル爲メ一時陸揚ヲ拒絶シタルコトアリ

陸運ニ於テハ震災ト同時ニ東海、中央兩線不通トナリ從來兩線ニ依リタル貨客ハ擧ケテ北陸線ニ依ル
ノ外ナキニ至リシ爲メサナキタニ輸送力ノ乏シキ同線ニアリテハ之カ運送ニ全機能ヲ盡シタリト雖モ
何分貨車ノ配給不足ノ爲メ貨物ハ相踵テ山積シ生産品及原料品ノ需給ニ圓滑ヲ欠キ運輸業者及一般商
工業者ヲ焦慮煩悶セシメタリ

富 山 市 (十一月十九日 商業會議所)

鐵道輸送不圓滑ノ爲メ滯貨山積ノ状態ナリ

高岡市

(十一月十四日 商業會議所)

五六

震災ト同時ニ東海、中央兩線不通トナリ從來兩線ニ依リ輸送シタル貨客ハ北陸線ニ依ルノ外ナク左ナキタニ輸送力ノ乏シキ同線ハ之レカ運送ニ全機能ヲ盡シタルモ諸般ノ設備整ハサル爲メ高岡驛ノ如キハ貨車ノ配給一日四輛ノ僅少ニシテ空前ノ滯貨ヲ見タリ

福井縣

(十二月十五日)

震災後東海、中央兩線不通ノ爲メ阪神地方ヨリ東都ニ搬出セラルル救護品、建築材料等ハ總テ北陸線ヲ經由セルヲ以テ貨車ノ配給圓滑ナラス一時敦賀一地方ニ於テスラ滯貨ニ萬噸ヲ越ヘ産米ノ輸出期ニ於テ各驛ニ涉リテ滯米多ク爲ニ米商ハ割安ニアラサレハ買入レサルヲ以テ一般農家ノ損害少カラス特ニ本縣特産物ノ羽二重精練用ノ燃料タル石炭ノ輸送遲滯ハ本工業ニ大ナル支障ヲ生セシメタリ貨車配給ノ不圓滑ハ一般商品トシテモ關西方面トノ輸送貨物延着ノ結果物資ノ需給關係ヨリ金融梗塞ノ一因ヲナシタリ

福井市

(十一月二十七日 商業會議所)

從來福井横濱間ニハ特定ノ貨物列車運轉セラレ發送ヨリ三日間ニ著貨セルモ福井神戸間ハ米原又ハ梅

小路驛ニ於テ貨車中繼ヲナス爲メ距離ニ於テハ福井横濱ノ半ニ充タサルニモ拘ラス多クノ時日ヲ要スルカ如キ不便ヲ痛感セルニ付當局ニ申請ノ結果指定代用車ノ運轉ヲ見發送三日目ニ著貨スルコトナレリ而シテ毎年新穀出廻ノ期節ニ於テハ貨車ノ不足ヲ生スル例ナルモ本年ハ一層貨車配給ノ不圓滑ヲ見ルハ震災ノ影響トモ認ムヘク現ニ關西方面ノ貨物ニ於テモ二三週間延着シ自然物資ノ需給關係滑ナラサルコトトナリ勢ヒ金融梗塞ノ一因トナレリ、又交通ニ及ホシタル影響ハ震災地方方面ノ旅客ハ増加セルモ一般ニハ著シク減少セルハ當然ノ趨勢ナリ

敦賀市

(十一月十五日 商業會議所)

今回ノ震災ノ爲メ最モ打撃ヲ受ケタルモノハ運輸業者ヲ以テ最トス、東海、中央兩線不通ノ爲メ阪神地方ヨリ東都ニ搬出セラルル救護品建築用品ハ北陸線ヲ經由スル外ナク管外多數ノ持込貨車ノ爲メ管内ニ於テスラ貨車ノ配給圓滑ヲ欠キ一時滯貨ハ二萬噸ヲ超ヘ木炭、木材、石炭、鹽干魚、肥料、雜穀商等ノ蒙リタル打撃ハ僅少ナラサリキ

石川縣

(十二月二十日)

海陸共ニ救護材料、復興材料ノ輸送ニヨリ輸送力ノ不足ヲ告ケ一般物資ノ滯貨甚シカリキ殊ニ當時ハ

五七

本縣ノ米穀移出ノ秋ニ際シ貨車不足ノ結果滯貨甚シク農家モ運送業者モ著シク損害ヲ蒙レリ

金澤市

(十一月二十八日 市役所)
(十二月十九日 商業會議所)

貨車ノ配給不圓滑ノ爲メ昨年十一月ノ在貨約五千噸ナリシモノ本年ハ約七千噸ニ達セリ、蓋シ昨年十一月北陸沿線地方ノ在貨ハ約二萬噸ナリシカ本年ノ滯貨ハ約九萬噸ノ巨額ニ達シタルヲ見レハ其ノ一般ヲ推スニ足ラン

福島縣

(十一月二十二日)

震災直後ハ救護品以外ノ物品ハ全ク之レヲ輸送スルコトヲ得ス他地方トノ取引ハ一時中絶シタリ其後人心ノ安定ト共ニ商品ノ仕入或ハ賣買契約ノ増加ニ連レ貨車ノ不足輸送遅延ノ爲メ取引ノ支障ヲ來シ滯貨各驛ニ山積シ季節物タル生柿、梨子、及各種鮮魚等ノ取引商ハ多大ナル損害ヲ蒙レリ米穀、織物、生糸等亦前述ノ如ク何レモ運送不圓滑ノ爲メ價格低落ヲ來セリ

福島市

(十一月十三日 市役所)
(大正十三年一月十七日 福島商業會議所)

鐵道運輸系統ノ變調ハ荷捌ニ大困難ヲ來シ滯貨山積シ種々ノ惡影響頻出セリ
特ニ當地方運送業者ニ於テハ震災ノ爲メ其ノ引受荷物ノ焼失被害約五萬圓ヲ計上シ加フルニ例年九、

十月ノ候ヨリ一般貨物増加シ運輸上屢々其ノ圓滑ヲ缺クカ如キ状態ナリシニ本年ハ震災後一時全ク運輸ノ途杜絶シ約一ヶ月間ハ殆ント通常貨物ハ發送停止ノ状態ニ在リ次テ貨物ハ出廻リ來レルモ貨車ノ配給意ノ如クナラサリシ爲メ營業ハ不振ヲ極メ休業同様ノ悲境ニ陥リシカ昨今稍々緩和セリ
當地方ノ特産品タル生糸及羽二重ハ從來主トシテ横濱ヲ中心トシテ輸出セラレシカ震災後ハ遙ニ神戸ヲ煩ハササルヘカラス、隨テ一層貨車不足及ヒ配給ノ變態ニ禍セラレ損害多シ又他方貨車配給ノ不圓滑ハ直ニ石炭ノ缺乏ヲ招來シ製糸家ハ操業ヲ中止シ、米穀ハ滯貨トシテ價格ノ低落ヲ招キ農家ヲ悲境ニ陥レタリ、其ノ他移出入貨物悉ク惡影響ヲ蒙ラサルナシ
鐵道當局ハ此レカ緩和ニ努力セラレ幾分恢復シ來レルモ未タ到底一般商工業者ノ安心ヲ買フ能ハサルモノノ如シ

山形縣

(十一月二十日)

鐵道ノ破壊ニ依リ貨車ノ配給圓滑ヲ欠キ輸送力著シク減退シタルヲ以テ各倉庫ハ何レモ滯貨充滿シ之カ輸送ニハ頗ル苦心シツツアル所ナリ、蓋シ今次ノ震災ニ依ル影響中最モ大ナルモノナラン、又貨物自働車、馬車ノ如キ運搬具ヲ震災地方へ送付セル爲メ之亦不足ヲ來シ貨物ノ積立配達等ニモ頗ル不便ヲ感シタル爲メ配達料金等ハ約二割方騰貴ヲ示セリ

一般交通ニ至リテハ震災當時避難者及上京者等ノタメ一時輻輳混雜ヲ來セルノミ

山形市 (大正十三年一月十六日 商業會議所)

山形東京間ノ運輸並ニ交通状態ハ救護上必要ナル物資輸送ノ爲メ一般商品ノ輸送ハ一時不能トナリ
客車亦難ニ赴ク救援者、災害地ヨリ地方ニ離散スル避難者ヲ以テ充サレ上下共非常ナル混雜ヲ呈セ
リ、東海道線不通ノ爲メ關西方面トノ輸出入ハ北越、信越線廻トナルカ如キ運輸系統ノ變更ヲ余義ナ
クセラレタル結果阪神地方ヨリ送荷セルモノ到着迄二ヶ月餘ノ日子ヲ要シ商取引ノ手違ヲ來シ困惑セ
ルモノ少カラス、十二月下旬ニ入りテ稍々緩和シ現今略常態ニ復シタルカ如シ

宮城縣 (十二月二十二日)

輸送物資増加セルニ不拘輸送力減退ノ爲メ堆貨甚シク仙臺鐵道局管内各驛ニテ滞貨三十餘萬噸ニ上レ
ル状態ナルヲ以テ之カ緩和策トシテ鹽釜港ヲ利用シ海路ニヨリツ、アルモ同港ハ設備不完全ニシテ意
ノ如クナラス歲末産米ノ移出期ニ際シ此儘推移スルニ於テハ地方經濟ニ行詰ヲ生スル虞アリ

仙臺市 (十二月十七日 市役所 十二月十五日 商業會議所)

鐵道ノ運輸關係面白カラサル爲メ鹽釜港ヲ利用シ海路輸送ヲ企ツルモ同港ノ設備尙完カカラサル爲メ

貨物澁滞シ奈何トモスヘカラサル狀況ニアリ

目下縣米ノ出廻期ナルヲ以テ此儘推移センカ地方ノ經濟ニ及ス影響ハ頗ル大ナルヘシ

秋田縣 (十二月二十七日)

本年震災前ハ財界不況ノ爲メ荷動キ不活潑ニシテ出貨少カリシ爲鐵道運輸當局ハ七、八月ノ夏枯レ期
ニ於テカメテ送越シヲ爲シ年末繁忙期ニ備フル所アリシニ俄然震災ト共ニ經濟界ノ動搖トナリ鐵道ニ
アリテハ九月二日ヨリ災害救護品、復舊材ノ優先輸送ニ全力ヲ注クニ至レリ

其ノ後二十一日ヨリ震災地行貨物モ必需品ニ限リ輸送開始シタル爲メ之等ノ持込殺到スルノ有様トナ
レルニ一方發送先荷捌ノ不圓滑ハ中途遊泊車ヲ出スニ至リ遂ニハ近距離輸送ニ迄支障ヲ見タリ
鐵道輸送カ甚シク不圓滑ニナリタル爲メ運輸業者間ニハ俄ニ船舶輸送ヲ計畫スルモノアルニ至レルモ
港灣設備ノ不完全ト船腹ノ不足ハ運賃ノ甚シク高値ニナリ其他各種ノ不便ヲ伴ヒ好結果ヲ見ル能ハサ
リキ

爾後運輸系統ノ恢復ト共ニ漸次緩和ヲ見ルニ至レリ

秋田市 (十二月二十七日 市役所 十二月十六日 商業會議所)

貨車不廻ニテ輸送圓滑ヲ欠ク

酒田町

(十一月十二日 商業會議所)

震災ノ爲メ關東地方ノ交通機關全ク壊滅シ酒田ヨリ中央市場へ輸送シタル米穀ハ悉ク災害ニ罹リ甚大ナル損害ヲ被リタルヲ以テ當地運送業者ハ東京運送業者又ハ受荷主ニ向テ之カ解決ヲ交渉シタルモ商品ノ錯綜甚ク中ニハ其ノ損害ヲ他ニ轉嫁シ又ハ支拂不能ヲ理由トシ相當資力アルモノモ之ニ應セサルモノアリテ出荷主ハ勿論當地運送業者ハ少カラス迷惑ヲ感シツ、アリ、而シテ此等ノ問題ハ末々全ク解決スルニ至ラス

災後九月六日ヨリ食糧及救恤品ノ發送ヲ開始シ同二十日ヨリ一般貨物ヲ取扱ヒタルモ貨車不足ノ爲メ澁滞甚ク日ヲ經ルニ從ヒ益々困難ヲ告クルヲ以テ當商業會議所ハ運送業者ト共ニ鐵道當局ニ向テ再三再四其緩和方ヲ陳情スル所アリシカ澁滞ハ容易ニ消化セス運送業者ハ目下殆ント休業ノ状態ナリ而シテ當時酒田驛乗降ノ旅客ハ概ネ避難者又ハ罹災地慰問者ヲ以テ充溢サレタル狀況ニテ戒嚴令施行以來奥羽線ニテ上京スル者ハ大宮驛ニ下車シテ證明調査ヲ受ケ又地方へ避難スルモノハ其ノ筋ノ證明書ヲ携帶シタリ、罹災者ニシテ當地へ避難シタルモノハ七百餘名ニ上リタルモ其後約半數ハ漸次京濱地方ニ歸去シタルカ如シ

岩手縣

(十一月二十四日)

震災ノ影響中甚大ナルモノハ蓋シ運輸交通ニ及シタル影響トス本縣ニ於ケル運輸ハ鐵道ニヨルコト多キヲ以テ震災ノ爲メ鐵道ノ損害少カラス且ツ貨車ノ配給圓滑ナラサル爲メ貨物ハ各所ニ停滯シ運輸業者ノ損害少カラサリキ交通ハ一時非常ニ混雜ヲ來シタルモ現今ニ於テハ常態ニ復セリ

盛岡市

(大正十三年一月十七日 市役所)

鐵道ノ輸送ハ今日尙未タ殆ント覺束ナキ状態ニテ發送到著共ニ甚シク遅延シ居レリ

青森縣

(十一月十九日)

陸上運送圓滑ヲ欠キ海運ニ依ルノ余義ナキニ至リタル爲メ從來航路ナカリシ東京青森間直航ノ定期航路ノ開始ヲ見タリ

二、四 國

高松市

(大正十三年二月十五日 市役所)

震災以來鐵道貨物ハ日々膨脹シ年末期ニ際シ一層甚シク嘗テ見サル一千噸ノ滯貨ヲ見タリ
此ノ間受託停止及受託制限行ハレタリ

震災當時ノ九月中ハ貨客共ニ非常ニ減少セルモ逐次回復シ爲ニ定期航海ニ變化ナシ

丸龜市

(十二月十八日 市役所)

鐵道線路破損ノ爲メ貨物ノ發着久シク遅延シタルコトアルモ其ノ他ニハ影響ナシ

愛媛縣

(十三年一月十日)

格別影響ナシ

宇和島市

(十一月十七日 市役所)

地方運輸業ノ中心及主要路ハ其ノ區域阪神以西ニ限ラレタルヲ以テ震災ノ結果蒙リタル影響著シカラ
サルモ阪地經由災地ニ至ル交通ハ一時杜絶シ大阪航路ノ乗客ハ二割減退セリ

高知縣

(十一月二十四日)

影響ト認ムヘキ事實ナシ

高知市 (十一月二十七日 商業會議所)

本市ト交通ノ頻繁ナルハ阪神地方ニテ主トシテ海路ニヨルヲ以テ震災ニ由リテ何等ノ影響ヲ受ケス東京地方トノ交通ハ阪神ヲ經テ鐵道ニ依ルモノナルヲ以テ鐵道ノ破壊ニ伴ヒ一時混雜シタルハ言ヲ俟タス

故ニ震災當時救護品送附ノ爲メ縣當局ハ一千噸級ノ汽船ヲ傭ヒテ浦戶口ヨリ芝浦ニ直送セリ、其後回漕店ニテ此ノ方法ニ出テシモノアルモ京濱トノ連絡ハ依然鐵路ニ由ルモノ多ク不便ヲ極メタリ

徳島市 (十二月廿四日 市役所 大正十三年一月廿四日 商業會議所)

震災後ノ商取引ハ期セスシテ從來ノ運賃ノ高値ヲ絶叫シ、當地ト阪神トノ航路ヲ獨占セル大阪商船及ヒ阿波國共同汽船兩會社(因ミニ兩會社共同經營)ニ對シ其賃金引下ヲ要求スルモノ多ク之レニ加フルニ右獨占航路ニ反對セントスル所謂反對汽船ノ顯ハル、アリ、爲メニ商船共同會社ハ名ヲ震災地方面ニ往復スル者ノ便宜ヲ計ルヲ口實トシテ汽船賃ヲ三割引トナスト共ニ一方貨物ノ賃金モ大量ニヨルモノハ大ニ之ヲ割引スルコト、ナリ縣民ハ安堵ノ思ヲナセリ、傳フル所ニ依レハ右割引ハ一時的ノモノ

トセス近ク賃金改正ノ舉ニ出ルモノ、如シ

一般交通ハ震災地方面ニ往復スル者頓ニ増加シ九月中旬頃ヨリ十月頃ハ非常ナル數ヲ示シ平時ノ約三倍ニ達セリ尤モ關東地方ヨリ避難シ來レルモノヲモ其中ニハ包含ス

三九
州

福岡縣 (十二月二十二日)

震災地方ノ運輸機關ノ破壊ハ各地方トノ連絡ヲ不圓滑ナラシメ輸送力ヲ減退セシメタルノミナラス一面罹災地方ニ發送スル貨物ノ停滯ヲ甚シカラシメ加フルニ罹災地方ニ發送スル復興材料、生活必需品ノ輸送ノ爲メ一般物資ノ輸送益々困難ヲ來シ地方産業上ニ及シタル影響少カラス

門司市 (十一月二十九日 商業會議所)

當港九月中ノ入港船ハ八月ニ比シ四十一隻、二十一萬三千餘噸ヲ減シ十月ニ至リテ平調ニ復セルカ此減少ハ震災ニヨル日本船ノ一時的ノ航路變更ニ依ルナルヘシ
斯ル有様ナルヲ以テ震災地以外ノ各地行貨物ハ多少ノ不便ヲ感シタルモ時恰モ事變ニヨル氣迷氣分ノ際ナリシコト、テ比較的打撃少カリキ、次テ震災ノ爲メ海運界一般ニ活況ヲ呈シ來リ運賃備船料等モ之ニ伴ヒ激騰ヲ告ケタルヲ以テ當港海運モ相當活氣ヲ示シタリ

小倉市 (大正十三年四月四日 市役所)

當地運輸ニ及ホシタル影響ハ左表ニ付テ之ヲ見ハ明カナラン

一、貨物

月別	發		送		到		著	
	小口扱	貨切扱	小口扱	貨切扱	小口扱	貨切扱	小口扱	貨切扱
九月	三九	一四五	四七	六五三	四七	六五三	四七	六五三
十月	三八	一九六	三五	六二五	三五	六二五	三五	六二五
十一月	三四	一五一	三九	七八一	三九	七八一	三九	七八一
十二月	三三	一三六	四五	七八〇	四五	七八〇	四五	七八〇
平均	× 四	× 六〇	× 八	× 八五	× 八	× 八五	× 八	× 八五
備考	×印ハ減ヲ示ス							

二、旅客

月別	乗車數		降車數	
	九月	一、六五五	一、五五五	一、六〇七
十月	一、八三六	一、六一〇	一、六〇七	一、六〇七
十一月	一、四七三	一、六一二	一、六〇七	一、六〇七
十二月	一、五六三	一、六一二	一、六〇七	一、六〇七
平均	×	×	×	×
備考	×印ハ減ヲ示ス			

同上比較増減

九月	×	×	一八二	五七
十月	×	×	二七三	三

備考 ×印ハ減ヲ示ス
三、小荷物

月別	發		送		到		著	
	九月	一七六	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九
十月	一五九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	二四九	
十一月	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	
十二月	×	×	×	×	×	×	×	
平均	×	×	×	×	×	×	×	
備考	×印ハ減ヲ示ス							

福岡市 (十二月十八日 商業會議所)

震災以來救護品及復興材料ノ輸送激増シ貨車ノ配給十分ナラサル爲メ貨物ノ停滯甚シ之レカ爲メ汽船又ハ帆船ニヨリ輸送スルモノ漸次増加シタル結果各航路共船腹ニ不足ヲ來シ船賃ハ騰貴セリ

若松市 (十二月二十四日 市役所)

當地海運界ハ筑豊炭ノ不況ニ基因シ閑散ヲ極メ前途悲觀ノ際震災後罹災者救護ノ物資運送用トシテ入港船舶ノ中汽船ハ多數徵發セラレ港内舢舨船六百隻中約二百隻ハ阪神地方ニ備船サレシ結果目下ノ石炭需要期ニ當リ船腹ノ不足ヲ訴ヘ海運界稍好況ニ向ヘリ、鐵道輸送ニアリテハ貨車ノ配給圓滑ヲ欠キ特ニ歲末ヲ控ヘ滯貨益々甚シク荷動キ困難ハ金融ノ不廻リトナリ經濟上ノ損失大ナリ

大牟田市 (十二月一日 市役所)

海運、夏枯レノ後ヲ享ケ沈衰狀態ニ在リタル斯界ハ震災ノ影響ヲ受ケ阪神、名古屋方面ニ於テ罹災地方面行小型船ヲ吸收シタル結果船腹ノ不足ヲ告ケ次テ石炭ノ需要季ニ向ヒタル關係上近海一帶ハ運賃漸騰シ備船料モ亦昂騰シタリ遠洋方面モ復興材料ノ大船腹需要ヲ見越シ著シキ活氣ヲ呈スルニ至レリ今近海東洋方面ニ於ケル主要石炭運賃ノ震災前ト現在トヲ比較スレハ左ノ如シ

	震災前	現在		震災前	現在
若松—横濱	一、九〇	四、二〇	同—新嘉坡	三、六〇	四、〇〇
同—伊勢灣	二、二五	三、六〇	同—香港	三、〇〇	三、一〇
同—上海	一、九〇	二、八〇			

備船料

一、〇〇〇噸未滿	四、〇〇	五、五〇	五、〇〇〇噸未滿	二、七〇	三、〇〇
二、〇〇〇噸未滿	三、五〇	五、〇〇	七、〇〇〇噸未滿	二、〇〇	二、二〇
三、〇〇〇噸未滿	三、三〇	四、〇〇			

陸運ハ貨車配給ノ減少ニテ肥料ノ如キ季節物ノ生産者ハ大ニ憂慮シ居レリ

久留米市 (十一月三十日 商業會議所)

貨車ノ配給意ノ如クナラス滯貨山積ノ狀態ナリ、特ニ當地ノ特産タル織物類ハ震災ノ影響ニヨリ幾分活躍セルモ輸送意ノ如クナラサルニ困憊シツ、アリ

佐賀縣 (十一月二十一日)

運輸業ニアリテハ貨車ノ配給不足シ各驛共貨物ノ遅延停滯甚タ多シ
震災地貨物ノ配達不完全ノ爲メ發送貨物(小口扱)手控ヘヲナスノ觀アリ尙又震災地方ニ於テハ運賃配達料等前拂ニアラサレハ取扱ハサル運送業者多キ爲メ當地ノ同業者其責任上進シテ貨物ヲ取扱ハサルノ傾向アリ其他震災地ノ滯貨殆ント手ノ付様ナシトノ風説ニヨリ發送見合セノモノ多シ

海運業者ニアリテハ震災救助品ノ輸送ニ次テ目下復興材料ノ輸送ノ爲メ船舶拂底ヲ來シ從テ運賃モ騰貴シ該業者ハ各航路共ニ一般ニ活況ヲ呈シ居レリ

佐賀市 (十一月十六日 商業會議所)

物資ノ輸送意ノ如クナラス當業者ハ少カラス迷惑ヲ感シツ、アリ

大分縣 (十二月十一日)

交通機關ノ破壊ハ輸送貨物ノ停滯ヲ招致シ運輸業者ノ困惑ハ勿論一般交通ニ及シタル影響甚シク殊ニ震災地方行青蕙ノ如キハ一時非常ノ滯貨ヲ見當業者ハ頗ル困難ヲ感セシカ今ヤ漸ク緩和セラレツ、アリ

熊本縣 (十一月二十二日)

本縣ニ於ケル鐵道輸送貨物數量ハ大正十一年度實況ニ依レハ移入五十二萬八千噸、移出六十四萬六千噸ニシテ本年ハ四月以降十月迄ノ移入高三十二萬九千噸ニシテ移出高ハ三十六萬八千噸ナリ而シテ之ヲ震災前後ノ狀況ニ對照スルニ八月ノ移出五萬七千噸ニ對シ九月ハ五萬四千九百噸、十月ハ五萬二千二百噸ニシテ三分八厘乃至八分五厘ノ減少ニシテ六、七月ニ比較スルトキハ却テ増加セリ、然レ共毎

年下半期ハ物資輻輳ノ時期ニシテ目下出盛期ニ屬スルヲ以テ約八千噸内外ノ滯貨ヲ見ルニ至レリ、又移入ニ於テハ八月ノ三萬八千五百噸ニ比シ九月ハ三萬九千四百噸、十月ハ四萬四百噸ニシテ震災後却テ二分三厘乃至四分九厘ヲ増加セリ、又海運ノ狀況ハ震災地以外ハ何等變動ナキモ東京、橫濱等ハ積荷ノ陸揚ニ多數ノ時日ヲ要スルヲ以テ運賃十五割以上ニ昂騰シタル結果採算上發送不能トナリ居レリ從テ船賃ノ低減セサル限り從來海運ニ依リタル貨物ハ今後鐵道便ニ依ラザレハ輸送シ能ハサルヲ以テ鐵道ニ依ル貨物ハ一層増大スヘシ
又交通ハ震災當時ハ震災地方旅行ハ乗車切符發賣ニ警察官署ノ證明ヲ要シタル關係上旅行者激減シタルモ一般乗車人員數ニ於テハ震災前ノ八月ニ比シ却テ九月ハ増加ヲ示セル狀態ニシテ差シタル影響ナシ

熊本市 (十二月十八日 市役所 十二月二十二日 商業會議所)

關東震災直後ニ於ケル熊本地方ノ運輸狀況ヲ知ラン爲メ九月中ニ於ケル熊本運輸事務所管内(鹿兒島本線中、羽犬塚以西直幸ニ至ル區間及三角線、宮地線、日奈久線ノ各支線)ニ於ケル旅客輸送數量ヲ一瞥スルニ前年同期ニ比シ乗車人員ニ於テ一割六歩ヲ増加セルモ收入賃金ニ於テハ却テ四步九厘ヲ減少セリ、是同期間ハ一般ノ旅行ノ季節ニシテ阿蘇登山、修學旅行團等近距離ノ乗者旅客般賑ヲ示シタ

ルニ引換遠距離ノ旅客減少甚シカリシカ爲メナリ而シテ是レ主トシテ關東震災ノ齎ラセル直接ノ影響ニヨル、次ニ貨物ニ就テ一瞥スルニ之亦同様ノ状態ニシテ即チ發着數量ニ於テ五歩弱ノ増加ヲ示シタルニ收入ニ於テハ實ニ一割一步六厘ノ激減ヲ來シタリ是レ主トシテ大震災ノ爲メ關東方面ニ對シ一時全ク輸送杜絶シ九月五日以後信越線迂廻ノ開通ヲ見タルモ救助品無賃輸送、生活必需品五割減扱等實施セラレ荷動上甚大ノ打撃ヲ蒙リタリシカ爲メナリ、但其間ニ於テ近距離ノ輸送ハ天候順調ニシテ需用季節ニ入レル石炭、米穀、木材等相當活況ヲ呈セル爲メ輸送數量ハ前年同期ヨリモ幾分増加ヲ示セリ之レヲ數字ニ示セハ左ノ如シ

貨物	旅客		比較増減
	噸	人員	
運賃	三二七、四〇〇 <small>圓</small>	六四六、〇四二 <small>人</small>	增 六一、九五二 <small>人</small>
收入	一三五、九五五 <small>噸</small>	五八四、〇九〇 <small>人</small>	增 六、二八四 <small>噸</small>
減	二四七、九九九 <small>噸</small>	三四三、六二六 <small>圓</small>	減 一六、二二六 <small>圓</small>
増	二六〇、四八八 <small>噸</small>	一二九、六七一 <small>噸</small>	増 六、二八四 <small>噸</small>
減		二二八、七一五 <small>圓</small>	減 二八、七一五 <small>圓</small>

長 崎 縣 (大正十三年一月十八日)

震災ノ爲メ罹災者ノ救恤、災害地復興ノ物資輸送ノ爲メ海陸交通運輸機關ハ全力ヲ之ニ傾注セルニヨ

リ一般商品ノ輸送ハ甚シク阻害セラレタルハ已ムヲ得サルモノト云フヘク且ツ災害地ニ於ケル交通運輸機關ノ潰滅ハ輸送物資ノ揚荷遅延シ爲メニ貨物ノ停滯甚シク交通運輸上多大ノ支障ヲ來セリ

長 崎 市 (大正十三年二月十六日 市役所 十二月十三日 商業會議所)

震災ノ爲メ災害地方ノ鐵路破壊ハ客車貨車共ニ減少シ就中救助ノ爲メ諸物資ノ移送ニ盡瘁セルヨリ當地ノ移出入商品ハ甚敷阻害セラレ米雜穀ノ如キ產地ヨリ當地行ニ仕立テラレシモノモ救助用トシテ買上ケラレ品薄ヲ訴フルノ状態ヲ現出シタル事アリ且ツ發送ノ救助品ニ於テモ鐵道便ニ據ルモノハ大迂回ト貨車不足ニ幾日ヲモ費シタルカ汽船便ニアリテモ災害地ニ於ケル人夫不足ノ結果揚荷迅速ナラス爲メニ航海遅延ハ洵ニ交通上ノ障害ヲ來タス事甚敷カリキ

日支連絡船タル長崎丸、上海丸ハ震災地航運ノ爲メ九月六日當地發ヲ終航トシテ徵發ヲ受ケシモ郵船會社ノ臨機ノ處置ニ依リ他線就航ノ船舶四隻九月十五日ヨリ寄港ノコト、ナリ輸出貿易ニハ差シタル影響ヲ與ヘサリシモ前記五日ヨリ十五日ニ至ル十日間ハ長崎上海間連絡ハ殆ント杜絶シ渡清旅客ハ著シク打撃ヲ蒙レリ尙郵船會社ノ臨時船就役後モ快速力ヲ有スルニ隻ノ就航當時ニ比シテハ乗客ノ減少ヲ見ルモノ、如シ、郵船會社ノ臨時船就航ノ結果ハ門司、大阪、神戸間トノ連絡著シク増加シ好結果ヲ齎ラシタルモノ、如シ

陸運ノ方面ヲ見ルニ從來本市鮮魚商ハ東京方面トノ取引關係アリシニ今回ノ災害ニヨリ貨車配給ノ制限ヲ受ケ取引上少カラサル打撃ヲ受ケタリ

宮崎縣 (十三年一月二十五日)

部分的ニハ多少ノ影響アリタルモ縣全體トシテハ旅客貨物共ニ差シタル影響ナシ

鹿兒島縣 (十二月二十八日)

震災地ヘノ輸送物資増加セルニ不拘貨車ノ配給不足ノ爲メ滯貨甚シク現在尙二萬餘噸アリ而シテ之等ノ滯貨ノ搬出ノ爲メ大阪商船株式會社ハ東京鹿兒島間ノ直行ヲ計畫シ一回實行シタルモ其後繼續セス運送業者ハ一般ニ貨物停頓ニ大困難ヲ感シツ、アリ

鹿兒島市 (十二月十二日 市役所 十二月二十八日 商業會議所)

貨車ノ配給圓滑ナラサル爲メ現在二萬餘噸ノ滯貨アリ、海運ニ依ラントスレハ船賃高ノ爲メ關東行貨物益々停頓シ運送業者及一般荷主ハ大困憊ノ狀態ニアリ
交通ハ震災當時ハ影響アリシモ現今ニテハ別ニ不便ナシ

沖繩縣 (十一月二十九日)

震災地居住者ノ本縣ヘノ歸還輸送ノ爲メ多大ナル影響ヲ蒙リ、尙鹿兒島、那覇間ノ定期航路船徵發ノ爲メ一時非常ナル不便ヲ蒙リタリ

四、北海道

函館市

(大正十三年一月二十三日
十一月十八日 市役所
商業會議所)

陸上輸送機關ノ破壊及船舶ノ徵發ハ一般輸送力ノ減退ヲ來シ加之海陸輸送機關ハ一時擧ケテ救恤品ノ輸送ニ從事セルト災害地トノ商取引杜絶トニヨリ在庫品激増シ九月下旬輸送機關ノ一部復舊セルモ尙貨車ノ配給不圓滑ニシテ青森ニ於ケル滯貨甚シク函館驛ニアリテハ荷物ノ引受並ニ發送制限ヲ附シ一方海運ニアリテハ京濱並阪神方面行船腹欠乏ノ爲函館ニ於ケル滯貨ハ未タ依然トシテ一掃セラレサル状態ニアリ近來函館ヨリ北陸地方及名古屋方面行荷物激増ノ爲メ近海郵船當地支店及北日本汽船會社支店ニ於テハ函館伏木間、函館名古屋間ニ新ニ臨時船ヲ配シ尼ヶ崎汽船部亦芝浦直航路ヲ開キ之レカ輸送ヲ開始セリ、今後出貨ノ模様ニヨリ或ハ持續セラレヘキカ尙一般交通ニテハ旅客ノ函館上リ五萬六百餘名ニシテ前年同期ニ比シ一萬四千四百餘名ノ増加ヲ來シ内地ニ移動セルモノハ三萬七千名ニシテ前年同期ニ比シ三千四百餘名ノ増加ナリ、之レ罹災者ノ避難ト救護員其他ノ上京者ノ多キニ因ルナラン

小樽市

(大正十三年十二月二十四日
十一月十八日 市役所
商業會議所)

A、海運(特ニ配船、運賃、備船料)ニ及ホシタル影響

配船

震災直後ハ京濱荷役設備ノ壊滅シタル爲メ當港郵船、北日本兩者ヲ始メ全般ニ同方面ヘノ配船ヲ見合セタルモ、道廳其他ノ救難品輸送開始ト共ニ連日芝浦向ケ發航スルモノアリタルモ之等ハ主ニ小型船ニ止マリ一般ニハ未曾有ノ船込ニヨリ荷役ニ意外ノ時日ヲ要シ採算上不利甚タシク、一方震災地方ノ鐵道ノ破壊ハ始ント本土全體ノ輸送系統ヲ覆シタルノミナラス全線ニ亘リ貨車ノ不足ヲ告ケ、從來鐵道輸送ノモノ、大半ハ海上運送ヲ餘儀ナクセラレタルト震前京濱ヨリ仕入タル商品ハ阪神ヨリ供給ヲ受ケタル結果船繰リモ京濱ヘ配航シツ、アリシ大型船ハ兵阪、北陸方面ヘ仕向ケラレタリ其他沿岸航路ニハ變化ナシ、尙京濱地方ノ貨物ヲ多ク取扱ヒツ、アリシ近海郵船會社當地支店ノ船繰狀態ヲ示セハ左ノ如シ

震 災 前	總 噸 數	二二〇〇噸—三八〇〇噸、モノ八隻乃至九隻ヲ使用シ
往 航	神戶、大阪、橫濱、函館、小樽	六 回
復 航	神戶、大阪、函館、小樽	三 回
復 航	小樽、函館、橫濱、大阪、神戶	三 回
復 航	小樽、函館、名古屋(又ハ四日市)大阪、神戶	三 回
復 航	小樽、函館、門司、尾ノ道、神戶、大阪	三 回

震 災 後	往 航	神戶、大阪、函館、小樽	六回又ハ七回
復 航	大阪、神戶(尾ノ道)門司、函館、小樽	二回又ハ三回	
復 航	小樽、函館、名古屋(又ハ四日市)大阪、神戶	五 回	
復 航	小樽、函館、門司、尾ノ道、神戶、大阪	四 回	

震後ハ定期船ノ橫濱寄港ヲ廢止シ重量三、六〇〇以下吃水十七呎以内ノ小型船ヲ、月、三、四回芝浦ニ入港セシメツ、アリ

運賃及備船料

近海方面ハ夏枯氣節ニ入りテ荷動キ鈍狀ヲ示シ且ツ船腹過剩著シキ爲メ一般運賃軟調ヲ辿リ來リ目先好材料乏シク各方面共不振裡ニ經過セル處九月一日關東地方ニ起レル大震災ノ爲メ罹災者救護品運送ニ關係官省、府縣ニ於テ船舶ノ徵備續々行ハレ九月下旬ヨリ下旬ニ至リ徵備船實ニ九十隻、三十餘萬噸ニ及ヒタルモ一般取引キハ金融界ノ警戒ト通信遲延等震災ノ影響ニヨリ商取引不圓滑ニ陥リ一般氣迷ヒ見送り狀勢ヲ示シタルモ京濱地方漸次落付キ來リ同方面建築材料、食料品、雜貨等出廻リ傾向ヲ示シ來ルト一方鐵道被害甚大ニシテ輸送能力ノ減殺サレタル關係上物資ノ輸送ハ專ラ海路ニヨルモノ漸増シ茲ニ一般運賃並ニ備船料ノ昂騰ヲ見ルニ至レリ

當港ニ於ケル運賃狀況ヲ見ルニ樺太航路ニ於テハ何等昂騰ナシ、樺太灣内積取り運賃ハ震災後最モ天候不良季ニ向ヘルトニヨリ約五割乃至八割ノ昂騰ヲ見タリ京濱行貨物ハ専ラ海路ニヨルモノ激增シ同航路開始ト共ニ貨物殺到船腹ノ不足ヲ來セリ、一方各地ヨリ京濱地方行配船スルモノ激增シタルモ同地ニ於ケル荷役能力ノ不完全ニヨリ甚シキ船込ヲ呈シ其ノ多キハ實ニ九十隻ニ及フ、之カ爲メニ同地碇泊ニ意外ノ日數ヲ要スルト揚荷費用高率、同地積荷物ノ皆無等ニヨリ運賃ノ昂騰ハ必然的現象トナリ震災前ニ比シ、約五割乃至十割ニ及ヘリ、然レトモ同地行貨物ノ急激増加ト同地ニ於ケル揚荷收容倉庫ノ焼失ニヨリ専ラ野外荷捌ノ止ムナキモノ多ク貨物ノ破損事故頻出ハ受荷主ノ苦情百出トナリ一方金融關係ニヨリ、昨今同地行稍々閑散ヲ呈シ運賃モ漸弱ヲ來セリ、兵阪行運賃モ一般運賃ノ好況ニ刺戟セラレ、約三割乃至五割 兵阪關門ヨリノ移入運賃ハ從來京濱地方トノ取引カ震災ニヨリ全ク不能ニ陥リタルタメ、兵阪地方トノ取引開始トナリ、一方鐵道ノ不圓滑ニヨリ海路輸送ノ増加ヲ來シ、約三割乃至五割ノ昂騰ヲ見タリ

尙從來鐵道ニヨレル、内地行貨物モ函館、室蘭ニ於ケル極度ノ發送制限ニヨリ、輸送圓滑ヲ期シ難ク内地最近港トノ連絡ヲ選ヒ來リテ急ニ、小樽、伏木間ノ貨物輻輳シ運賃約五割方ノ騰貴ヲ示セリ、殊ニ石炭運賃ノ如キハ割合ニ他貨物ニ比シ賃率モ割好シカラス、貨物ノ輻輳ハ石炭ノ輸送ヲ好マス、一方石炭業者ハ之ガタメ、内地納入契約石炭ノ不足ヲ來シ輸送ノ急ニ促サレ、意外ノ賃率ヲ以テ申込

ムモノアル模様ナリ

備 船 料

重量 噸	八 月	九 月	十 月	十 一 月
二、〇〇〇噸以下	三、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	五、五〇〇
三、六〇〇噸以下	二、二〇〇	二、四〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇
五、二〇〇噸以下	一、八〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇
七、〇〇〇噸以下	一、五〇〇	一、七〇〇	二、二〇〇	二、五〇〇
七、〇〇〇噸以上	一、三〇〇	一、五〇〇	一、八〇〇	二、〇〇〇

運 賃 率(小樽輸送)

(兩船内人足賃船主持)

品 目	數量	京 濱		伊 勢 灣 阪 神 關 門			
		八 月	九 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月
雜 貨	一噸	一、〇〇〇	〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
豆	同	六、〇〇〇	〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇
玉 葱	同	六、五〇〇	〇	九、七五〇	一〇、〇〇〇	八、〇〇〇	八、五〇〇
麥 粕	同	八、四〇〇	〇	一、二、六〇〇	一、二、六〇〇	八、四〇〇	九、〇〇〇
昆 布	同	三、〇〇〇	〇	一、五、〇〇〇	一、五、〇〇〇	一、五、〇〇〇	一、三、二〇〇
棒 鱈	同	一、五、〇〇〇	〇	二、〇、〇〇〇	二、〇、〇〇〇	一、五、〇〇〇	一、八、〇〇〇

製材	一噸	六、〇〇〇	〇	八、四〇〇	八、四〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	七、〇〇〇
鹽魚	同	八、〇〇〇	〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	一〇、〇〇〇
魚油	同	六、〇〇〇	〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	七、〇〇〇

九二

其他沿岸航路運賃ニハニ震災ニヨル變化ナシ

B、鐵道ニ及ホセル影響(市内四驛ノ狀況)

札幌鐵道局管内

管内即チ北海道内ニ於ケル貨車ノ配給ハ圓滑ニシテ貨物輸送上ニモ特記スヘキ支障ヲ見ス、到着貨物中石炭ノ震災地需要激減ト輸送杜絶ノ爲メ前年九月ヨリ十一月迄ノ到着高三十五萬噸ニ對シ約五萬三千噸ヲ減少セリ又災害地行復舊建築材ノ搬出旺盛ニシテ前年同期ニ比シ約二萬四千噸激増シタリ

管外

即チ内地方面ニ對スル輸送狀態ハ青森以南ニ於ケル線車頗ル不圓滑ニシテ青森驛頭ニ山積セラレタル滯貨ハ延イテ青函間輸送制限トナリ道内各驛ハ割當制度トナリシヲ以テ常ニ所要車數ヲ得ルコトナク滯貨ノ約三割ヲ輸入セシニ過キスシテ而モ其ノ大半ハ震災地行雜穀其他食料品ナリ、到着ハ平常ニ比シ約四割減ヲ來セリ

札幌市

(十一月二十二日 商業會議所)

鐵道ノ輸送ノ圓滑ナラサルニ困難ヲ感シツ、アリ、滯貨山積ノ有様ナルモ青函間ノ輸送ニ制限セラレタルヲ以テ非常ニ困憊ヲ感シツ、アリ

旭川市

(十一月二十日 商業會議所)

震災ニ依リ本道内地間ノ交通運輸ハ全ク圓滑ヲ欠キ其一般ニ受ケタル不便甚タ大ナルモノアリ當旭川驛ニ於ケル震災地方行ノ貨物ノ一般輸送ハ漸ク九月二十一日ニ至リ其開始ヲ見其ノ他内地各方面行ノモノモ十月ニ入り稍々舊態ニ復セリト雖モ震災ノ影響ニ依リ仙臺鐵道局管内ニ於ケル貨車配給全ク其自由ヲ欠キ青函連絡ノ船腹ハ平常約一千二百噸ノ能力ヲ有スルニ不拘現在ニ於テハ約其半數六百噸ヨリ利用シ能ハサル狀態ニシテ爲メニ當旭川管内ニ於ケル内地連絡貨車ノ配給ハ一日僅カ三車ニ過キス内地輸送貨物ノ停滯最モ甚タシク之ハ震災ニヨリ運輸上ニ及ホシタル最大ナル影響ナリトス道内輸送ノ貨物ハ農産時期トテ頗ル輻輳ヲ極メ當旭川驛ニ於ケル貨物ノ停滯ハ日々約一千五百噸ニ達シ居レリト雖モ斯ハ毎年ノ例ニシテ特ニ震災ノ影響ト見ル能ハス而シテ九、十月中ニ於ケル當驛到着噸數ノ大ナルハ震災地方行製材用ノ爲メ原木ノ到着巨額ナリシニ起因シ、九月中ニ於テ發送噸數ノ大ナリシハ震災地行救護材料ノ輸送多カリシニ因ル而シテ十月中發送ノ少ナキハ内地連絡不圓滑ニ依ル結果ト認メラル

當旭川驛ニ於ケル本年九、十月中發着貨物ヲ昨年同期ニ比較スレハ次ノ如シ

年次	發送噸數	到着噸數
大正十二年九月	一四、九九七	一三三、三二五
大正十一年九月	一〇、七八〇	二〇、二八三
大正十二年十月	一八、八一八	二六、〇一九
大正十一年十月	二一、二四九	二二、二九三

叙上ノ如ク震災ノ爲メ著シキ影響ヲ受ケタルハ内地連絡貨物ノ停滯ニシテ海陸共ニ輸送圓滑ヲ欠キ震災前ニ比シ貨物ノ到着ハ約十日ノ遅延ヲ見ルニ至リ當業者ノ不便大ナリ其ノ他交通上ニ著シキ影響ヲ認メス

釧路市 (十二月十八日 市役所)

震災後一ヶ月間ハ鐵道輸送ニ困難ヲ感セシモ其後相當ニ恢復セリ

五、植民地

樺

太

(十二月二十八日)

一般交通ニハ差シタル影響ナキモ船腹ハ震前頗ル潤澤ニシテ木材ノ運搬ニハ余裕アリシモ震災後ニ於テハ復舊資料運搬ノ急ヲ要スル爲メ本島ニ對スル船腹ノ供給ハ大ニ不足ヲ告ケ木材運賃ノ如キハ七割以上ノ暴騰ヲ來シ運輸上ニ甚大ナル影響ヲ來セリ

大

泊

(大正十三年一月十七日 商業會議所)

樺太海運業者ハ期間悉ク命令定期航路ニ就業シツ、アル關係ト昨年五月北海道稚内トノ聯絡船開航ヲ實施セラレタル爲メ震災ニヨリ渡航者ノ増加アリシト雖モ交通上特ニ影響アリシヲ認メス運輸業ニアリテハ東京方面ヨリノ積荷及仕向ノ減少ヲ免レサリシト雖モ前述ノ如ク主トシテ震災地以外トノ取引關係ニアリシカ爲メ統計上比較的顯著ナル移動ヲ見ス然レトモ震災地ニ汽船集中セラレタル結果自由航路ニアル汽船ノ寄港減少スルニ至リ自然運輸ノ圓滑ヲ欠キタルモ大局ニ於テ之レカ爲メ特ニ支障ヲ生スルニ至ラサリキ、運賃關係ニ於テモ自由航路ニアルモノハ内地運賃ノ昂騰ニ伴ヒ概シテ移出運賃五割方ノ騰貴トナリ殊ニ尤モ甚シキハ木材運賃ニシテ昨年度ノ百七、八十圓ニ比シ昨今三百四十圓内外ニ騰貴シ移入運賃モ米味噌日用品ニ、三割内外ノ昂騰ヲ示スニ至レリ、命令航路船ハ何等運賃變動ナシト雖モ十二月ニ入り命令期間ノ終了スルニ至レハ例年ノ割増ヲ實行スル外震災後海運界ノ復活ニ

伴ヒ漸次運賃ハ一般昂騰氣味ニアルヲ免レス

眞

岡 (大正十三年一月十五日商業會議所)

陸上島内交通ニハ影響ナシ、海上船腹ノ拂底ヲ來シ中型以上ノ汽船ハ悉ク震災地ニ徵發セラレ小型汽船ノミ航海シタル結果旅客及物資輸送上不便ヲ來セリ

豊

原 (十一月十六日 商業會議所)

特ニ影響ヲ及ホシタルコトナシ

朝

鮮 (大正十三年一月十八日 總督府)

一、鐵道業ニ及シタル影響

イ、鐵道ノ普通貨客輸送上ニ及ホシタル影響トシテハ朝鮮ハ、震災地ト相距ルコト遠ク而モ從來ノ商取引ハ主トシテ阪神及九州ヲ對手トシテ行ハル、ヲ以テ比較的尠カリシカ如シ、唯震災當時關東地方行旅客貨物ハ交通又ハ通信機關杜絶ノ爲メ之カ輸送ヲ停止シ又ハ商取引ノ中心地タル阪神地方ガ震災地救助ノ爲メ他事ヲ顧リミサル等ノ關係ニ依リ自然商取引ノ不活潑ヲ招致シ爲ニ内地連絡旅客貨物ノ減少ヲ見ル收入モ例年ニ比シ稍減少シタリ、而レトモ十月ニ入りテハ殆ト舊態ニ復セルヲ

見ルニ至レリ、(第一表參照)

ロ、鐵道ニ於ケル今回事變ノ爲メ特殊輸送トシテハ鮮人罹災者ニシテ歸還スルモノ及ヒ震災地以外ノ地ヨリ送還セラルル鮮人多數ニ上リ又震災地ニ送ラル、救恤品ノ數量尠カラス之等輸送ニ付テハ各鐵道共殆犠牲的精神ノ下ニ事ニ對シ即チ各鐵道同一ノ步調ヲ取り前記避難者ニ對シテハ(一)罹災者返還者ヲ問ハス無賃(二)罹災者カ一旦避難シタル地ヨリ更ニ親戚、知己ノ許ニ行ク場合ハ三等普通運賃ノ五割減トシ救恤品ニ對シテハ(一)官公衙、公共又ハ慈善團體宛ノ寄贈品ニシテ官公衙託送ノモノ又ハ其ノ證明アルモノハ無賃(二)官公衙、公共又ハ慈善團體納メノ罹災者救濟用食糧及建築材料ニシテ官公衙ノ證明アルモノハ規定運賃ノ五割ヲ低減シ且ツ避難者又ハ救恤品ノ輸送ニ對シテハ各種便宜ヲ供與スル等萬遺憾ナキヲ期スルコトニ努メタリ、(第二表參照)

ハ、其他私設鐵道中其建設用品ヲ東京ニ於イテ註文製作セシメツ、アリシモノ震災ノ爲メ燒失シ之カ爲メニ事業ノ進捗ニ障害ヲ蒙リタルモノアリ、金剛山電氣鐵道力其變電機ヲ芝浦製作所ニ於テ製作セシメツ、アリシモノ燒失シ他ニ新ニ註文スルヲ要スルニ至リシ爲約半ケ年開通ヲ延期スルノ止ムナキニ至リシモノ是ナリ

第一表、九、十月分各鐵道運輸數量及收入概算表

一、滿鐵朝鮮線

九月分

年度	營業哩	乘車人員	手小荷物數	貨物噸數	客車收入	貨車收入	雜收入	合計	一日一哩收入
一〇	一、一五七、四 ^{哩分}	一、一七、〇五九 ^人	二、四七、〇三二 ^斤	二、三九、二五四 ^噸	一、〇八三、一七三 ^円	七九九、二三五	一、四三、八六四 ^円	一、〇五五、二七二 ^円	五八三三
一一	一、一六五、〇	一、三三、七八二 ^人	二、八七、七六五 ^斤	二、五八、〇五九 ^噸	一、一五九、三九九	八八三、八〇一	一、四五〇、七二二	一、〇一八、九八〇	六三三三
一二	一、一八九、〇	一、三九、三九二 ^人	二、七九、四六五 ^斤	二、八二、八二五 ^噸	一、一三三、三九六	八二四、四三七	一、五四、一九三	一、二二、〇二六	五九六九
合計									

十月分

年度	營業哩	乘車人員	手小荷物數	貨物噸數	客車收入	貨車收入	雜收入	合計	一日一哩收入
一〇	一、一五七、四 ^{哩分}	一、一七、〇五九 ^人	二、四七、〇三二 ^斤	二、三九、二五四 ^噸	一、〇八三、一七三 ^円	七九九、二三五	一、四三、八六四 ^円	一、〇五五、二七二 ^円	五八三三
一一	一、一六五、〇	一、三三、七八二 ^人	二、八七、七六五 ^斤	二、五八、〇五九 ^噸	一、一五九、三九九	八八三、八〇一	一、四五〇、七二二	一、〇一八、九八〇	六三三三
一二	一、一八九、〇	一、三九、三九二 ^人	二、七九、四六五 ^斤	二、八二、八二五 ^噸	一、一三三、三九六	八二四、四三七	一、五四、一九三	一、二二、〇二六	五九六九
合計									

二、各私設鐵道(總括)

九月分

年度	營業哩	乘車人員	手小荷物數	貨物噸數	客車收入	貨車收入	雜收入	合計	一日一哩收入
一〇	一、一三四、七 ^{哩分}	八、七二〇 ^人	—	一、七、四七九 ^噸	四六、〇三九 ^円	二、七三三	—	六九、七七一 ^円	一七二六
合計									

十月分

年度	營業哩	乘車人員	手小荷物數	貨物噸數	客車收入	貨車收入	雜收入	合計	一日一哩收入
一一	二、一〇、四	一、三、三七	—	二、七、〇五二 ^噸	五、六六〇	四、七四〇	—	一〇、四〇〇	一七二七
一二	二、五、三	一、四、一三	—	四、〇、六七二 ^噸	八、五〇八	五、二三五	—	一三、七四三	一八〇四
合計									

第二表、震災避難者及救恤品輸送數量

(大正十二年九月一日至同年十月二十日)

鐵道名	無		有貨(半減)		無		有貨(半減)	
	罹災者	送還者	罹災者	未詳	罹災者	未詳	罹災者	未詳
朝鮮線	六四〇 ^人	八九三 ^人	—	—	—	—	—	—
朝鮮鐵道株式會社	一七〇	一四	—	—	—	—	—	—
京南鐵道株式會社	—	—	—	—	—	—	—	—
金北鐵道株式會社	七六	—	—	—	—	—	—	—
合計								

計	八六九	九一八	一、五五四	一〇〇、六六五
價川輕便鐵道	一七	一	(七〇、四)	一
圖們鐵道株式會社	二	一	(九一八、二)	(五九四、六)

二、海運ニ及シタル影響

久シク不況裡ニ在リタル海運界モ震災以來俄然船舶ノ需要起リ活況ヲ呈スルニ至レリ、是震災直後救恤品ノ輸送ハ陸上輸送機關ノ破滅ニ依リ船舶ニ依ルモノ多ク且横濱東京ニ於ケル陸揚設備ノ壞滅ニ依リ滯船日數多キ爲メ益船舶ノ需要ヲ喚起スルニ至レリ、其後陸上運輸機關ノ回復ヲ見ルニ至リタルモ輸送力尙未タ從前ノ如クナラス震災地ニ於ケル復興材料日常品等ノ需要益多キヲ加フルニ至リタル爲船舶界益活況ヲ呈シ運賃、傭船料ノ暴騰ヲ見ルニ至リタルニ因ル

(一)運賃ノ騰貴 若松横濱間石炭一噸運賃震災前一圓九十錢ナリシモノ十一月始メ四圓二十錢即チ二倍二分トナレリ朝鮮ニ於テハ若松横濱間運賃ノ如ク海運界ノ變遷ニ機敏ニ順應セサルヲ以テ實行運賃ニ於テ運賃市場タル若松横濱間運賃ノ如キ騰貴ヲ見サリシト雖左表ノ如ク二割弱ノ騰貴ヲ見ルニ至レリ

區	間	單	位	震	災	前	震	災	後
仁川	神間	米穀	百石			七五			九〇
鎮南	神間	同	同			八〇			九五
釜山	神間	同	同			六〇			七〇
元山	神間	同	同			七五			八五
元山	神間	同	同			七五			八五
釜山	神間	同	同			六〇			七〇
新義州	濱間	木材	一噸			六			七
同	同	豆粕	一枚			二			三

(二)傭船料ノ昂騰 傭船料ハ噸數ニ依リ異ナルモ千噸未満ノ船舶震災前重量噸當四圓五十錢ナリシモノ十一月始五圓五十錢トナリ二割以上ノ騰貴ヲ見タリ、朝鮮ハ小型汽船ヲ要スル爲傭船料モ其ノ騰貴率著シク、最近朝鮮郵船會社カ傭船シタル料金ハ三百噸級ノ船ニシテ噸當六圓ナリ

(三)航路ニ及ホシタル影響 内地船舶界多忙ノ爲定期航路ニアラサル臨時船ノ來航減少シ爲ニ定期船ハ積荷ノ増加ヲ見ルニ至レリ、例へハ横濱朝鮮西岸線ハ震災前一航海平均移出貨物一、六八〇噸ナリシモノ震災後一、八九〇噸ニ増加セリ

定期航路ノ改廢ニ付テハ命令航路多キ關係上震災後ノ影響殆トナシト雖唯尼崎汽船會社カ經營セル

大阪濟州島線就航船君ヶ代丸ハ震災後兩地間鮮人ノ往復著シク減少シタル爲本航路ヲ廢止シ他ニ有利ナル航路ニ就ケリ

三、一般交通ニ及シタル影響

旅客方面ニ於テハ震災突發ノ情報ヲ得ルト同時ニ一般ノ驚愕一方ナラス殊ニ震災地ニ親戚知己ヲ有スル者ニ在リテハ之カ安否ヲ知ルコトニ焦慮シ自ラ震災地ニ出向ヲ希望スル者アリシカ之等ハ交通機關杜絶又ハ震災地ノ狀況ニ依リ旅行ヲ中止シタリ、又貨物方面ニ於テハ震災ニ因ル金融ノ逼迫或ハ交通機關ノ杜絶ニ因ル輸送停止或ハ商取引ノ解約等相應ニアル模様ナルカ確タル數ニ付テハ知り難シ

釜山 (十一月十五日 商業會議所)

釜山驛ニ於ケル取扱貨物ハ發送四千百餘噸到着九千四百餘噸ニシテ前年同月ニ比シ發送百餘噸ヲ減退シ到着二千五百餘噸ヲ増加セリ本月ハ關東震災ノ影響ヲ受ケ一般荷動ニ於テ不振ヲ免レサリシモ到着ニ於ケル米、大豆、木材等ハ恰モ出廻季節ニ入り相當活況ヲ呈シタリ、其ノ狀況及關係諸表左ノ如シ

發送

小麥粉、相場持合ノ姿ナリシカ實需筋ノ不振ニ依リ荷動抄々シカラス、主トシテ京城、金泉、大邱ニ仕向ラレタリ

木材 震災ノ影響ハ一時建築界ニ恐怖ヲ招キ相場強調ナリシモ實需方面ノ活氣乏シク前年同月ニ比シ八十餘噸ヲ減退シ、京城、大邱、平壤等ニ仕向タリ

米 震災ニ因リ特殊ノ高値ヲ出現シ一時大手筋ノ取引旺盛加フルニ新穀出廻期ニ際シ荷動頗ル好況ヲ呈シ前年同月ニ比シ二千八百餘噸ヲ激増セリ

大豆 新穀出廻ニ刺戟セラレ月初相場強調ニシテ、新大豆ノ出廻相當好況ヲ呈シタリ、前年同月ニ比シ百七十餘噸ヲ増加シ密陽、龜浦、洛東江等ヨリ回送セラレタリ

木材 震災後京濱地方ヨリノ需要多ク海路移出セラレタルモノ相當アリシモ鮮内ニ於ケル建築界ハ一時行惱ミノ姿ヲ出現シ取引頓ニ閑散トナレリ、前年同月ニ比シ七百七十餘噸ヲ減退シ安東新義州等ヨリ回送セラレタリ

釜山驛發着貨物噸數及運賃種別二年比較表

扱別	發			送	
	噸數	運賃	手数	合計	到着
小口扱	二、五五八	二二、四九二	八六	二二、四九二	一、〇五二

車扱	計	前年同月	増減(△)
一、五五三	四、一一一	四、二一八	△一〇七
七、〇七七、三三三	三、〇、五七〇、一九	三、三四六、〇〇六、〇八	△三、四五三、八九
	三、四六二、〇二	三、三五三、九三	一〇八、〇九
	七、〇七七、三三三	三、七、三六〇、〇一	△三、三二七、八〇
	八、四二六	六、八七九	二、五九九

釜山驛主要貨物噸數品名別二年比較表

品名	發		送		到		着	
	本年九月	前年同月	本年九月	前年同月	本年九月	前年同月	本年九月	前年同月
米	三三三	一七一	一六二	一	五、二〇〇	三、五三三	八四七	金泉、倭館、大邱
大豆	一	一	一	一	一、二〇七	一、〇三〇	一七七	慶山、龜浦
粟	一五九	一〇八	五	一	一	一	一	密陽、龜浦
麥粉	四四	一四一	九七	一	一	一	一	洛東江、進浦
鮮魚	三〇五	二七五	三〇	一	一	一	一	密陽
鹽干	二六	一三	一三	一	一	一	一	京城、大邱、慶山
野菜	二四	一三	一三	一	一	一	一	京城、大邱
煙草	二四	六	一八	一	一	一	一	進水、舊馬山
綿布	九四	一〇七	一三	一	一	一	一	密陽、大邱
木炭	一	一	一	一	一	一	一	密陽、勿禁

品名	發		送		到		着	
	本年九月	前年同月	本年九月	前年同月	本年九月	前年同月	本年九月	前年同月
陶器	二〇六	一四一	六五	一	一一〇	五	兼浦	
金屬類	一六六	三一六	一五〇	一	一四	四	兼浦	
金屬器類	一九七	一九七	三三	一	三三	一	京城、密陽	
吹繩	九四	一九八	一〇四	一	七六	一〇〇	鳥致院、大邱	
豆粕	四五五	五四〇	八五	一	七三	八	松竹里、榮山浦	
木材	二七五	九〇	一八五	一	五二	七八	安東、新義州	
セメント	四五五	九〇	一八五	一	七三	八	安東、新義州	
竹	二七五	九〇	一八五	一	五二	七八	安東、新義州	
其他	一、七三一	一、八五五	一、二二四	一	一、六四四	一、二七〇	三、七四	
合計	四、一一一	四、二一八	四、一〇七	一	九、四七八	八、七九三	五、九九九	

本月中手小荷物取扱數ハ前年同月ニ比シ發六百餘個、着百餘個ヲ減退シ、中繼移入二萬八千餘個、移出二千餘個ヲ減退セリ
 其内中繼移入小荷物新聞雜誌ノ如キハ關東震災ノ爲メ殆ト其ノ大半ヲ失ヒタルヲ以テ例外ノ不況ヲ示シ居レリ其詳細左表ノ如シ

釜山驛手小荷物個數種別二年比較表

於テハ米、線綿及打綿、生金巾及生シトチング綿織糸等盛況ヲ呈セリ

船舶旅客

上陸三萬五千餘人乗船二萬餘人ニシテ前年同月ニ比シ上陸一萬三千餘人ヲ増加シ乗船三千七百餘人ヲ減セリ、其内朝鮮人上陸一萬餘人ヲ増加セルハ大部分關東震災ニ於ケル避難鮮人ノ歸郷セルモノニシテ特ニ注目スヘキ現象ナリキ

倉庫

(イ)官設保税倉庫 入庫百九十餘噸出庫二百餘噸月末殘高三百餘噸ニシテ前年同月ニ比シ入庫二百八十餘噸出庫三百四十餘噸殘高百餘噸ヲ減セリ、之レ本年ハ綿布、砂糖、鋳力板等ノ荷動ヲ見タレトモ前年ニ比シ不況ヲ免レサレキ

(ロ)私設營業倉庫 當地七私設營業倉庫ニ於テハ入庫八萬四千餘個出庫十萬三千餘個月末殘高九萬七千餘個ニシテ前年同月ニ比シ入庫二萬餘個殘高二萬餘個ヲ減シ出庫二萬餘個ヲ増加セリ、之レ月初關東地方大震災ノ爲經濟界ニ不意ノ刺戟ヲ與ヘ一般取引共一時中斷狀態ニ陥リ期米亦亂調相場ヲ出現セル等荷動不振ノ因ヲナセルカ其内震災救助米トシテ移出筋ハ特殊ノ盛況ヲ呈シ當地ノ在庫モ一時品薄ヲ告ケタリ、其ノ狀況左ノ如シ

米、入庫五萬八千餘個出庫七萬一千餘個月末殘高一萬八千餘個ニシテ前年同月ニ比シ入庫一萬八千

餘個出庫一萬九千餘個ヲ増加シ殘高一萬二千餘個ヲ減セリ、之レ月初ノ震災後期正米ノ暴騰ト相俟テ荷動キ俄ニ活氣立チ東海道、信越方面ヘノ仕向一時旺盛ナリシモ暴利取締令ノ發布ト共ニ反撥の逆調相場ヲ示シ日先尙漸落歩調ヲ辿リツ、アリ

大豆、入庫二千二百餘個出庫四千四百餘個殘高二千三百餘個ニシテ、前年同月ニ比シ入庫千九百餘個出庫三千六百餘個殘高千七百餘個ヲ何レモ増加ヲ示セリ、之レ月初正米ノ暴騰ニ刺戟セラレ相場強調ヲ示シ新大豆ノ出廻開始ト共ニ荷動頗ル旺盛ヲ極メタリ

綿織物、入庫百四十餘個出庫五百六十餘個殘高五百餘個ニシテ前年同月ニ比シ入庫二百五十餘個殘高八百餘個ヲ減シ出庫十餘個ヲ増加セリ之レ本月ハ鮮盆向需要季ニアレトモ實需筋ノ買控ヘト震災後ノ不況トニ因リ荷動渺々シカテス市價ハ在品ノ如何ニ依リ區々ノ相場ヲ出現セルニ由ル

海藻、入庫千九百餘個出庫千四百餘個殘高六千三百餘個ニシテ前年同月ニ比シ入庫千四百餘個出庫一千餘個殘高四千六百餘個ヲ増加セリ、震災後内地問屋筋ヨリノ入註稍活況ヲ呈シ相場強含ミノ氣味ニテ越月セリ

京城

(十二月二十七日商業會議所)

一、海運

震災後内地海運界ハ救援復興ニ要スル建築材料、食料品及雜貨等ノ積込ノ爲ニ船舶ハ殆ト東京ヲ基點トシテ各市場間ヲ運航シ海運界ハ時ナラヌ活況ヲ呈セリ

朝鮮ニ於テモ震災ト同時ニ朝鮮郵船會社備船昌福丸(一、七二一噸)ヲシテ救援米壹萬石ヲ仁川及群山ヨリ各五千石宛積込ミテ芝濱ニ直送セシメ遞信局御用船光濟丸(一、〇一八噸)ハ慰問品及修養團ヲ載セ震災地ニ積送シ其ノ外朝郵ノ櫻島丸モ同シク釜山ニ於テ慰問品參百噸ヲ積載シテ震災後ノ應援救濟ニ努力シ又尼崎汽船會社君ガ代丸(六六五噸)ハ震災前内地渡航ノ鮮人輸送ノ爲大阪—濟州島線ヲ航行シ、アリシモ震災以來鮮人ノ内地渡航ヲ禁止セラレタル結果十一月上旬ヲ以テ之ヲ廢止シタリ、カ、ル關係上朝鮮沿岸航路ノ配船上ニモ多少ノ移動ヲ見タリ

朝鮮海運界ハ毎年五月ヨリ八、九月迄ハ夏枯ノ閑散期ナルカ、殊ニ本年ハ財界不況ノ域ヲ脱セス船舶過剩ヲ見越サレタル際大震災突發シテ内地ニ於ケル復興物資ノ輸送ニ船腹ノ過剩ハ一時ニ不足ヲ生シ之レカ影響ハ朝鮮沿岸航路ニ於テモ運賃昇騰ノ素因ヲナシテ震災前ト比較スルニ一割二三歩乃至二割方ノ昂騰ヲ見タリ

區 間	單 位	震 災 前	震 災 後	區 間	單 位	震 災 前	震 災 後
仁川—阪神	米一〇〇 _石	七五 _円	九〇 _円	南浦—阪神	米一〇〇 _石	八〇 _円	九五 _円

元山—阪神	同	八〇	九〇	元山—關門	同	七〇	九〇
釜山—阪神	同	六〇	七〇	釜山—關門	同	五五	七〇

而シテ備船料ヲ震災前ト比較スルニ小型船ノ四割強ヲ筆頭ニ中型一割大型五分強何レモ昂騰ヲ見タリ小型船ノ昂騰歩合最モ甚シキ理由ハ、朝鮮ニ最モ必要ナ千五百噸乃至二千噸級ノ小型船カ大部分阪神—京濱間ニ就航シ朝鮮近海ニハ配給困難トナルノ趨勢ヲ示シタルカ爲ニシテ勢ヒ社外船ノ侵入モ減シ且ツ穀類ノ出盛期ニ入ツテ益々船腹ノ需要増加シツ、アル所以ニ外ナラス今朝鮮郵船ノ阪神行積荷ノ狀況ヲ見ルニ震災前ハ平均一、六八〇噸ノ積荷ニ過キサリシモ震災後ハ一、八九〇噸即チ一航海復航運賃約一割三分ノ增收ヲ示シタリ

斯ノ如ク朝鮮海運界ハ震災後ニ於テ好轉シ現今運賃ノ如キモ表面朝鮮郵船、大阪商船ハ協定値ヲ維持シ居ルモ滞貨多クシテ荷捌キ充分ナラス此ノ間社外船側ニテハ取引上特クニ迅速ヲ要スル向ニ對シ百二三十圓ノ高値ヲ主張スルカ如キ有様ニシテ今後船腹需要ノ増加ニ伴ヒ運賃ハ一層昂騰ノ趨勢ニアリ

二、鐵 道

大震災ニヨツテ朝鮮鐵道關係ニ及ボシタル影響トシテハ特記スヘキ程ノモノアラサルモソレニシテモ全鮮ヲ舉ケテノ驚愕ト國民的同情ノ反映ヨリ救援物資復興用建築材料等ノ貨物ノ荷動キ急増シ九月中ニ於ケル鮮内鐵道ハ全線共震災關係ノ無賃輸送貨物或ヒハ建築材料等特殊の割引運賃貨物罹災者及送

還者ニ對スル無貨輸送等全線ニ亘ツテ好意的ニ其取扱ヲナセルヲ以テ同月中ノ朝鮮線運輸成績ハ乘車人員及貨物噸數ニ於テ可成ノ激増ヲ見ルニ至レルモ運輸收入ニ於テハ反ツテ減退ヲ見ルノ結果ヲ示シタリ左ニ九月中ニ於ケル滿鐵ノ營業成績ヲ昨年同月ト比較對照シテ見レハ次ノ通り

滿鐵收入表 (九月份)

(△印減)

種別	京釜線		京義線		京元線		湖南線		咸鏡線		咸鏡新		本年度	前年度比
	噸數	收入	噸數	收入	噸數	收入	噸數	收入	噸數	收入	噸數	收入	較增減(△)	較增減(△)
營業哩	三〇四、八	三六九、八	三三二、八	三六六、九	一三六、四	一七六、五	一七六、五	九九、四	八〇、一	一一、八九〇	一一、八九〇	二四〇	二四〇	
乘車人員	六八、一三九	三五三、八六九	一〇五、三六三	一八二、三五八	一八二、三五八	一八二、三五八	一八二、三五八	五二、三四五	五八、二八一	五九、三三九	五九、三三九	一三七、五九一	一三七、五九一	
小荷物	一、六三九、四三三	四八、三五三	三三二、五五〇	二八三、七六六	二八三、七六六	二八三、七六六	二八三、七六六	六四、六〇一	六四、六〇一	六四、六〇一	六四、六〇一	△八三、〇〇〇	△八三、〇〇〇	
斤噸數	一〇九、五四〇	二五、一四〇	一五、二七二	一四、〇五三	一四、〇五三	一四、〇五三	一四、〇五三	六、二〇六	二、六二一	二八二、八五	二八二、八五	二四、七六六	二四、七六六	
貨物噸數	五九五、七五四	二五九、七二〇	八七、七四五	一九、三三六	一九、三三六	一九、三三六	一九、三三六	三三、七二六	三三、七二六	三三、七二六	三三、七二六	△二六、〇〇三	△二六、〇〇三	
客車收入	三〇八、四四五	四〇三、一五六	三四、七一九	四〇、六〇一	四〇、六〇一	四〇、六〇一	四〇、六〇一	一六、二八〇	二、二八〇	二二、二四四	二二、二四四	△五、三三三	△五、三三三	
貨車收入	三、五九〇	二、五五六	二、五五六	二、五五六	四〇九	四三五	四三五	二、六五〇	二、六五〇	九	九	七、三三八	七、三三八	
倉庫收入	七四、一八五	四八、六四三	四八、六四三	四八、六四三	七、四六〇	八、一八一	八、一八一	二、六五〇	五、七五九	一、四八、八七五	一、四八、八七五	七、六三三	七、六三三	
雜收入	九一、九五四	七四、〇六九	七四、〇六九	七四、〇六九	一三〇、三三三	一六八、五四三	一六八、五四三	五二、八八四	六四、二五二	一一、〇三六	一一、〇三六	△七、九五四	△七、九五四	
收入計	一〇〇、七六一	六四、三七	六四、三七	六四、三七	三一、三九	三一、三九	三一、三九	一九、五三	二六、七四	五九、六七	五九、六七	△二、九六	△二、九六	
平均收入														

右表ニ示ス如クガ前月ニ比シ乗車人員ニ於テ十三萬七千五百餘人貨物噸數ニテ二萬四千七百餘噸ノ激

増ヲ見タルニ不拘之レカ收入ノ點ニ於テハ何レモ反ツテ減收ニシテ客車收入ニ於テ二萬六十三圓貨車收入ニ於テ五萬九千三百八十三圓ノ減收ヲ示シ其ノ一日一哩平均ニテハ二圓九十六錢ノ減退ヲ見ルニ至レリ

即チ鮮內鐵道全線ニ亘ツテ發送シタル無貨乘車人員ハ罹災者六千四十一人送還者八百九十三人ニ達シ之ノ外罹災者救恤品ノ無貨輸送ニ係ル貨物噸數ハ八百八十四噸五割引運賃ニテ取扱タル貨物ハ五百九十四噸ニシテ荷動以外ノ活況ヲ呈シ全線ノ貨物總噸數ハ前月ニ比シ二萬四千七百噸ノ增加トナリ從ツテ九月中ノ配車數ハ之ヲ前年同月ト比較對照スルニ局車一萬三千七百六十五車滿洲車百四車合計一萬三千八百六十九車ニ達シ局車ニ於テ七百五十三車滿洲車ニテ六十車合計八百十三車ノ増發ヲ見タリ無貨輸送貨物ハ救援物資ニシテ主トシテ食料品大部分ヲ占メ次ハ慰問品ニシテ各驛別ニ之レカ荷動キヲ示ストキハ次ノ如シ

京義線		慰問品	
米		古	一〇二、〇〇〇斤
		古	六、〇〇〇
		古	六、〇〇〇
		古	六、〇〇〇
		古	二五五、〇〇〇
		古	一五二、五〇〇

密	大	大	金	大	永	龍	京	烏	仁	開	平	新義州荷扱所	兼	南	裡
陽	邱	線	田	浦	山	城	城	山	川	城	壤	所	浦	浦	厘
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
釜	山														
一、五五七	三、七三一	一、〇〇八	八、八〇五	四、六七八	五二、三九六	五七、二五二	三、一一一	二、五〇一	一、九八二	九、三〇一	四、三二六	二、三二三	一、一五二	二四、八二八	

又全線主要各驛別ニ無賃輸送貨物其他罹災者、送還者ニ對スル無賃輸送ノ取扱ヲ示セハ次ノ如シ

發 驛 着 驛

斤 量

京 釜 線	慰 問 品	五〇、三〇〇
味 噌 醬 油	七、〇〇〇	
其 他	四、〇〇〇	
米	二五五、〇〇〇	
慰 問 品	四、五〇〇	
古 着	一八、〇〇〇	
漬 物	一〇、〇〇〇	
イ ヲ コ	四、〇〇〇	
雨 傘	八、〇〇〇	
慰 問 品	一一、〇〇〇	
醬 油、漬 物	四、〇〇〇	
其 他	一、二〇〇	
湖 南 線		
京 元 線		

井	木	群	元	咸	大	龍	京	大	同	木	其	合
邑	浦	山	山	興	邱	山	城	邱	浦	浦	他	發
釜	同	同	同	同	群	田	同	小	新	先	各	計
山	同	同	同	山	山	端	濱	野	宿	州	驛	震災救恤品輸送數量(半額扱)
一、〇二九	三、六八九	四、四六一	二、四〇〇	四、四三〇	一、二八〇	一、八〇〇	四、一二三	三六、一一四	五〇、七五〇	二、六七五	一二、二一一	噸數
												三一三、九一二

新義州荷扱品	草	梁	七一
同	釜	山	一〇三
大	新	宿	四二〇
計			五九四

罹災者及送還者無賃輸送表(十月廿日迄)

龜	密	大	龜	金	京	馬	力	木	著	送還者
浦	陽	邱	浦	泉	城	山	浦	浦	驛	罹災者
一一八	一三四	八五三	二九九	二二九	六二〇	六四七	一四六	四七六		
八	二八	一六四	四二	七〇	二三	二一〇	二	四四		

元山 一四五
 咸興 九三
 其他 一、九〇一
 合計 五、六六一
 二九五
 八九三

次ニ私設鐵道九月中ノ各線營業成績ヲ見ルニ之ノ方面ハ營業範圍狹少ニシテ差シテ影響ト認ムヘキ程ノモノナク唯僅カニ少數ノ罹災者ノ無賃輸送ヲナセルニ過キサリキ
 即チ忠北線八名廣東線三十六名黃海線九名全南線二十七名京南線十名仁川線十一名及全北線九名計百十名ニシテ救援物資ノ輸送ニツイテハ餘リ見ルヘキモノナカリキ
 私設鐵道九月中ノ營業成績次ノ如シ

朝鮮鐵道收入表 (大正十二年九月中)

種別	忠北線	全南線	落東線	黃海線	咸南線	合計
營業哩	八四	六八、一	二七、六	九三、六	五三、一	五七七、八
貨物噸數	一、八八四	二、八三九	二、七五七	七、一六九	二、九六〇	一七、六〇九
乘車人員	一、三九三	一九、三六五	三三、六二三	一五、七九八	八、〇〇三	七八、一八二
運輸收入	一三、三〇二	一四、六九二	三六、三一〇	一九、〇二三	八、四六六	九一、七九三

前述ノ如ク朝鮮鐵道ニ於テハ其ノ震災影響左迄重大ナリト云フヲ得サルモ之ノ國民的大災厄ニ際シテ常ニ鐵道經濟ノ窮迫セル現況ヲ以テシテ罹災者及送還者ノ輸送ニ且ハ救恤品ノ輸送上ニ圓滑ナル取扱ヲ見タルハ其ノ犠牲的精神ヲ窺フニ足ルモノアリ

今ヤ朝鮮ニ於テモ事一段落ヲ告ケ同時ニ新穀出廻期ノ切迫ト季節物荷物ノ増加ニ連レ十月中ノ貨車配合ハ九月中ヨリ四百五車ノ増加ヲ見漸次鐵道ノ繁忙期ニ入リツ、アリ

仁川 (十一月十六日 商業會議所)

船腹ノ不足ニ基ク船運賃ノ騰貴著シク震災以來小型汽船ノ需要頓ニ起リ朝鮮ニテハ輸出入トモ普通一千噸級ヲ適度トセル關係上一層船腹ノ不足ヲ來シ運賃ハ次第ニ騰貴シツ、アリ、普通阪神行(標準ハ米百石建)七、八十圓ナリシカ十月以來九十圓ニ上リ尙出廻期ニ向ヒ漸騰ノ氣配ナリ又東京行ハ朝鮮郵船會社ハ命令航路ノ關係上百十二圓ナルモ其他ハ二百圓ヲ唱へ然モ廻船ハ困難ノ様子ナリ

群山 (十二月十三日 商業會議所)

何等影響ナシ

木浦 (十一月十六日 商業會議所)

復興材料輸送ノ爲メ阪神間航船ハ震災地ニ停滯シ小型船腹ノ不足トナリ備船料ノ昂上トナリタル爲メ朝鮮各港ト阪神間ノ運賃ハ本月一日ヨリ約一割六分ノ値上トナリタル上船腹ノ不足ヲ來シ米穀、棉花出盛期トナリタル今日輸移出業者ノ打撃少カラス

平

(十二月五日 商業會議所)

特ニ影響ト認ムヘキモノナシ

鎮南浦

(十二月十七日 商業會議所)

影響ナシ

元山

(十一月二十六日 商業會議所)

大豆運賃百石ニ對シ震災前ニ於テ

下ノ關、門 司

七十圓

神 戶、大 阪

八十圓

ナリシモノ震災後ハ

下ノ關、門 司

八十五圓

神 戶、大 阪

八十五圓

ニ騰貴セリ其ノ他ノ移出入品ノ運賃ニハ從來ト變化ナシ

關 東 州

(十一月三十日 關東廳)

イ、鐵道運輸

母國震災地ト遠隔シ而モ海外ニ存在スル當地方鐵道運輸ニ對シテハ別段ノ影響ナシ

ロ、海 路

主トシテ大連港ヲ中心トルス海運ニ及ホセル影響ニツキ觀察スルニ震災直後ハ震災地トノ通信不能ノ爲同地方向ケ輸送契約ハ全然解除或ハ變更ノ止ムヲナキニ至リ一時混亂状態ヲ呈シ空シク滯船セルモノ數隻ニ及ヒシカ時恰モ對母國貿易ノ最閑散期ニ相當セルカ故ニ運輸交通上甚シキ支障ヲ來セルモノナシ

十月ニ人リ震災地方ノ整理復興ノ進捗ニ伴ヒ輸送状態ヲ恢復シ石炭ヲ除キテハ多少運輸系統ヲ變更シタルノミニシテ昨年同月ニ比シ反ツテ輸出噸數ニ於テ五四、七〇七噸ノ増加ヲ示セルハ蓋シ對母國貿易ノ大宗タル、大豆、豆粕ノ消費地方カ主トシテ罹災圏外ニ在ルニ因ルナラン之レニ反シテ撫順炭輸送ノ皆無トナリタルハ其消費地タル京濱工業ノ全減ニ因ルハ論ナシ、今大正十一、十二年九、十兩月

ニ於ケル對橫濱伊勢灣大豆、豆粕、石炭ノ輸出總噸數ヲ示セハ左ノ如シ

別	橫		濱		伊勢	
	大正十一年 九月、十月分	大正十二年 九月、十月分	大正十一年 九月、十月分	大正十二年 九月、十月分	大正十一年 九月、十月分	大正十二年 九月、十月分
大豆	五、八七九	九、一九一	一、〇一四	一一、〇〇二	一一、〇〇二	一一、〇〇二
豆粕	一七、三八一	一一、〇〇〇	三三三	七、三七五	七、三七五	七、三七五
石炭	二六、四七〇	—	一三、五六〇	五、八二二	五、八二二	五、八二二

右表ニ示ス如ク震災ノ影響トシテハ橫濱ノ全滅ニ伴ヒ從來橫濱經由輸入ノ特産品ハ勢ヒ伊勢灣又ハ清水港ニ運輸系路ヲ變更スルコトナリタル爲メ同地方及ヒ京濱諸港ハ船舶常ニ輻輳シ人夫舢舨ノ不足ヲ來シタル船舶碇泊長キニ亘ル等ノ關係上運賃ノ高率ヲ見ルニ至レリ、今震災前後ニ於ケル各地ノ運賃比較ヲ示セハ次ノ如シ

大連ヨリ各港間	品名	震災前	震災後
橫濱	豆	〇、一六〇	〇、二七〇
伊勢灣	粕	〇、一六〇	〇、二二〇

然ルニ入港船舶カ十月ニ入り昨年同月ニ比シ左表ノ如ク、隻數ニ於テ二十六隻、總噸數ニ於テ七萬八

千七百五十噸輸入貨噸數ニ於テ一萬四百三十一噸ノ減少ヲ示セルハ、一見奇異ノ現象ニシテ震災ノ影響ナルカ如ク思ハル、モ主ナル原因ハ蓋シ氣候其他經濟的關係ニヨリ本年ノ特産物南下遲延ニヨルモノニシテ其ノ副因トシテハ撫順炭販賣契約ノ停滯及京濱復興材料輸送ノタメ大型船舶ノ大平洋方面ニ集中セラレタルニ因ルモノ、如シ之ヲ要スルニ震災ノ大連港對母國ノ運輸業ニ及ホセル影響ハ主トシテ撫順炭ノ輸送出額ニ於テ幾分減少ヲ豫想セルモ其ノ他ハ輸出入共著シキ變化ナキモノト信セララル

別	入港船隻數	總噸數	輸入貨噸數
大正十一年十月	二二二	五三六、三八九	六七、二四三
大正十二年十月	二〇六	四五七、六三九	五六、八一二
比較	△ 二六	△ 七八、七五〇	△ 一〇、四三一

次ニ一般交通ニ關シテモ差シタル影響ナク只震災後一ニ定期航路使用船ヲ京濱へ派遣シタルモ都合好ク船繰リシ月餘ニシテ舊態ニ復シタリ今之レヲ詳述セハ左ノ如シ

イ、神戸大連線

大阪商船株式會社就航船四隻ノ内、はるびん丸（總噸數五、一六九噸）一隻ヲ震災地ニ派遣シタルモ航海度數ニ於テ變便ナク單ニ九月八日大連ニ入港スヘキヲ同九日ニ同十五日大連出帆ヲ同十四日ニ船繰

シタルニ過キス

大連 上海線

就航船二隻ノ内西京丸(總噸數二、八四八)一隻ヲ九月十三日ヨリ十月十一日迄震災地行需給品ヲ搭載シ、京濱地ヘ向ハシメ、之ニ代フルニ大連、天津線就航ノ長平丸(一、七五〇噸)ヲ以テシ、又長手丸ニ代フルニ安東天津間ノ貨物船濟通丸(一、〇三七噸)ヲ使用シタリ、其他貨物船長順丸(二、二四五噸)又泰順丸(一、六五七噸)ヲ救恤品輸送ノ爲メ震災地ニ向ハシメタルモ他ニ影響ナシ

大連 市

(十一月二十四日 商業會議所)

一、海 運

船運賃、歐洲大戰終熄以來海運界ハ殆ト火ノ消エタルカ如キ現象ヲ呈シ殊ニ每年下半年期ハ一層不振ノ時期ナルヲ常トセルカ這般ノ大震災ニ依リテ十六萬數千噸ノ船舶ヲ徵發サレ又震災ニ依ル「ラムバト」約千六百萬石ヲ要シ其ノ約半數ハ加奈陀ヨリ輸入ヲ仰ク外ニ策ナキ結果之ニ要スル船舶モ亦著シカルヘク他日輸入品免除等ト相俟ツテ相當輸入ニ増加ヲ示シ之等船舶ノミヲ以テスルモ約三百五十萬噸ト見做サレ、又近海航路ニ於テモ鐵道不通ケ所頻出ノ爲メ貨物ノ停滯ヲ生シ、結局海運ニ倚ラサルヘカラサレハ此ノ方面ニモ、亦幾分ノ船舶ヲ要シ、震災後ノ海運界ハ活況狀態ヲ呈シ、只救恤品輸出ノ爲

ニ、「ライター」困難ノ點ナキニアラサルモ、「チャイター」レージ」ハ益々高潮シ、大連橫濱間豆粕運賃ノ如キ、夏枯閑散期ニハ十三錢ノ安値ヲ示シタルモノ十月上旬ニハ遂ニ二十八錢九厘ト暴騰シ中旬以降更ニ昂騰シテ三十錢ヲ高値ヲ現出シ、十一月ニ入り、震災地ニ於ケル荷役ノ稍々恢復サレタル爲メ幾分緩和サレタリト雖モ、猶月上旬三十九錢中旬二十五錢ノ高値ヲ維持シツ、アレハ、此後ノ特產物輸出最盛期ニ於テ、其打撃ヲ蒙ムルコト決シテ、尠少ナラサルヘク延テハ、貿易上ニモ亦多少ノ影響ヲ及ホスモノト、思惟セラル、今七月以降大豆、豆粕運賃ヲ示セハ左ノ如シ

大連港仕出運賃

(百斤ニ付單位厘)

豆	大			豆			豆		
	七月	八月	九月	十月	十一月	七月	八月	八月	
橫濱	上旬	二四〇	二三〇	二二〇	二二〇	上旬	二四〇	二三〇	
	中旬	二一〇	二〇〇	一九二	一九〇	中旬	二〇〇	一九二	
	下旬	一九二	一八〇	一七〇	一七〇	下旬	一八〇	一七〇	
伊勢灣	上旬	二四〇	二三〇	二二〇	二二〇	上旬	二四〇	二三〇	
	中旬	二一〇	二〇〇	一九二	一九〇	中旬	二〇〇	一九二	
	下旬	一九二	一八〇	一七〇	一七〇	下旬	一八〇	一七〇	
門司	上旬	二四〇	二三〇	二二〇	二二〇	上旬	二四〇	二三〇	
	中旬	二一〇	二〇〇	一九二	一九〇	中旬	二〇〇	一九二	
	下旬	一九二	一八〇	一七〇	一七〇	下旬	一八〇	一七〇	

粕		
十月	九月	十月
二九〇	一六〇	二八九
二五〇	一七〇	三〇〇
一九六	一七〇	三〇〇
二〇〇	一七〇	一九〇
一九三	一七〇	一九三
一六〇	一三〇	一五八
一六〇	一四〇	一六〇
一六〇	一四〇	一六〇

出入船舶、震災前後即七月以降十月ニ至ル大連港出入船舶隻數ノ噸數ヲ各月別ニ示シ、之ニ前年同期ヲ比スルニ九月迄ハ大體ニ於テ變北ナキモ十月ニ至ツテハ入出港其幾分ノ減少ヲ告ケタリ、左ノ如シ

十月	九月	八月	七月	入		出	
				隻數	噸	隻數	噸
本前	本前	本前	本前	二二四	五一二、九四三	二二〇	五〇三、三〇八
年	年	年	年	二六四	五九四、四五二	二五四	五七七、六六六
年	年	年	年	二二一	四八六、八〇二	二一九	五二一、五八一
年	年	年	年	一九七	四七二、四八三	一九五	五〇一、一五五
年	年	年	年	二二二	四九四、一四〇	一九〇	四三七、四二〇
年	年	年	年	二〇六	五三六、三八九	二二二	四五三、八六六
年	年	年	年	二〇六	四五七、六三九	二一〇	五〇〇、六六八
年	年	年	年				四七四、七六三

更ニ埠頭發着旅客數ヲ見ルニ左ノ如シ

七月	八月	九月	十月	上陸		乗船	
				本年	前年	本年	前年
月	月	月	月	一七、一八九	一七、〇〇〇	一〇、一五四	一〇、八四二
月	月	月	月	一七、五八一	一六、七九九	一二、〇三三	一〇、五九七
月	月	月	月	一六、六四五	一七、〇一二	一〇、九一六	一〇、九六〇
月	月	月	月	一六、一八五	二三、二三八	一三、〇六〇	九、一四五

内地大連間定期船 前記旅客ノ發着ハ大連埠頭乗降ノ總數ナル爲メ、震災ニ依ル影響ヲ見ルニ、共ニ便ナラサレハ、直接航路トシテノ、内地大連間定期船旅客數着發ヲ見ルニ、大體ノ數ニ於テハ大ナル差異ナキモ、從來一、二等ノ所謂上等客カ、三等客ニ比シ、其ノ比率尠少ナラサリシモ、最近ニ於テハ、上等客數ノ減退甚シク、之ニ反シ下等客數ニ激増ヲ來シタルカ如キ、現象ハ一般財界ノ銷沈ニ由ルト雖モ、震災後ノ十月ニ至ツテ一層顯著ナルハ畢竟震災ニ由ル影響モ亦其一因ナリトス、左ノ如シ

入港（上陸客數）

九月	十月	隻數			計
		一等	二等	三等	
本前	本前	九九	二八〇	二二、二一〇	
年	年	一五〇	三六八	二二、四二五	
年	年	二二八	四八一	二二、九七一	
年	年	二二八	三六八	二二、九四四	
年	年	二二九	四七二	二二、八四五	
年	年	二二八	四七二	二二、八四五	

出 港 (乗船客數)

月	前年	隻 數			計
		一 等	二 等	三 等	
九 月	前年	九 九 八	一 五 七	三 七 八	二 二 三 六 九
十 月	前年	九 九 八	一 五 七	三 三 〇	二 二 二 五 二
九 月	本年	九 九 八	一 五 七	三 三 〇	二 二 二 五 二
十 月	本年	九 九 八	一 五 七	三 三 〇	二 二 二 五 二

前表ニ由ツテ見レハ入出港共震災後ノ十月ニ入ツテヨリ、其客數ノ増加シタルハ避難者ノ渡港及救護慰問否調査等ノ爲メ往來頻繁ナリシ所以ニ外ナラス

二、陸 運 (鐵道及電鐵)

滿鐵客車收入 滿鐵全線ニ於ケル客車收入ハ例年九、十月頃ハ乗客ノ往來頻繁ナル爲メ、增收ヲ呈スルモノニシテ、全七月以降ノ乗客人員及收入ヲ前年同期ノ夫ト比較スレハ左ノ如シ

月	乗客人員		客車收入	
	本年	前年	本年	前年
七 月	六一一、六二四	五七三、八八二	九七八、三七一	九二五、六三四
八 月	六一六、〇六五	六二九、五五六	九一六、一九八	九一三、七〇六
九 月	六二一、二八七	六六八、三六八	一〇七、九六九	九四二、四一二
十 月	六六三、三六〇	六六一、〇七三	一、〇六三、八八二	一、〇五六、九〇三

更ニ大連驛ニ於ケル乗客等扱別乗降人員及乗客收入ヲ前二ケ年ノ各自ノ總收入ニ於テ幾分ノ減收ヲ見タルカ、大體ノ乗降總人員數及總收入ニ於テハ、變化ナキモ他面十月ノ減收ハ震災ニ依ル視察國等ノ例年ニ比シ減退シタルモ、其一因ニシテ、又一、二等ノ上等客著シク減シ而モ急寢臺車收入ノ如キニ至ツテモ亦各月減收ノ跡瀝然タルモノアリ、蓋シ之等ノ現象ハ財界不振ノ結果ニ依ルモノモアルヘク、之ヲ以テ全部震災ノ影響ト見做ス能ハサルモ多少ノ影響ヲ受ケ居ルハ明カナリ
即チ左ノ如シ

月	前年	乗車人員			降車人員		
		一等	二等	三等	一等	二等	三等
七 月	前年	七〇七	四、五五	二七、五三	五五八	三、四九一	二四、五八二
八 月	前年	五七三	五、八二三	四八、五七七	四八四	四、七二四	三九、六七九
九 月	前年	五〇九	五、七四〇	四八、〇三二	二九一	四、〇七九	四一、九一九
十 月	前年	五七二	五、五八一	三九、一九一	五九九	四、〇四九	三三、四三六
十一 年	前年	四三三	四、八七	五三、四六二	四一八	四、一三〇	四七、〇三二
十二 年	前年	五七四	五、二二六	六五、一七	四七四	三、八七二	五三、〇四三
十一 年	前年	七六〇	五、五五	三〇、六九六	七〇九	三、七七八	三〇、四五三
十二 年	前年	四八九	三、六三八	三三、九五〇	四四六	三、〇七九	三三、九二七
十一 年	前年	二六八	二、九七一	三六、三九一	二五二	二、七八一	三六、三九四
十二 年	前年	二六八	二、九七一	三六、三九一	二五二	二、七八一	三六、三九四

十月	十一月	十二月
八二二	六六八	二四二
六、七九	五、五五	四、五〇七
三六、八三八	三七、九五六	四四、四〇七
四四、三八九	四四、一四九	四九、一五五
六六〇	五七六	二八三
五、七八〇	四、〇八七	三、五八〇
三八、五五六	三九、三八四	四二、五四三
四四、九九六	四四、〇四七	四六、四六一

七月		八月		九月		十月	
十一年	十二年	十一年	十二年	十一年	十二年	十一年	十二年
七、四五四、四一	五、八八〇、三三	四、九二一、九七	八、七九一、六三	五、一四五、七八	四、五九五、〇二	九、一三八、二三	四、二八〇、七四
二、三、九〇三、三九	二〇、〇九三、〇九	二〇、一七〇、七四	二四、二二三、六八	二四、一一四、三〇	一七、九二八、二四	二五、九五、九六	二〇、八六四、二二
四四、三〇四、七六	五〇、六四九、九七	五二、三三三、〇〇	四七、九六四、七六	四八、六九八、四四	五六、八六二、一一	四六、五四六、一七	四九、八〇〇、二八
三、八三三、三五	四、六八一、五三	四、四六二、三三	四、九六二、一七	五、一〇一、三六	四、二一九、四八	五、二〇一、二四	四、九六一、七一
七九、四九五、九二	八一、三〇二、九一	八一、八九一、九三	八五、九五二、二四	八三、〇五九、八八	八三、五〇四、八五	八六、八四二、六〇	七九、九〇六、九四
計	計	計	計	計	計	計	計

電車收入 市内電車收入ヲ普通券、回数券、通學券及貸切車ノ別ニ七月以降ヲ前年同期ノ夫ト比スレハ、九月迄ハ減收ヲ呈セルモ十月ニ至リ三千五百餘圓ノ增收ヲ見タルモ冬期ハ夏期ニ比シ、寧口增收ヲ見ルハ毎年ノ例トス、震災當時ハ乗客一時著シク減退セルモ、其後漸次快復シ左ノ如ク大體影響ナキモモノト見ルコトヲ得ヘシ

七月		八月		九月		十月	
前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年
四二、三九五、一四	四三、四八四、五四	四一、八八八、三四	四四、四二七、四五	三七、六〇七、四四	四一、三五四、五五	四二、一八八、八五	三八、九三三、五五
四〇、一四、〇〇	三九、七六九、五〇	四〇、四九三、〇〇	四〇、六九一、五〇	三四、〇〇七、〇〇	三五、〇七五、五〇	三四、五九九、五〇	三四、八四一、五〇
一、二二五、八〇	三、〇七〇、四五	七五五、一五	一、六五五、四〇	一、五七七、六〇	一、九六八、六五	一、三六〇、八〇	二、〇八五、八五
一、一八七、〇〇	七〇〇、〇〇	一、二二二、〇〇	三〇九、〇〇	九五六、〇〇	四三三、〇〇	一一八、〇〇	一二七、〇〇
八四、九〇一、九四	八六、三九二、四九	八四、二七八、四九	八七、〇八三、三五	七四、一四八、〇四	七六、八三〇、七〇	七九、二七、一五	七五、八六〇、九〇
計	計	計	計	計	計	計	計

營口—横濱間ノ航路ハ一時中止セラレタリ
 營口 (十一月十七日 商業會議所)

本島鐵道ニ及ホタル影響トシハ財政緊縮ノ方針ノ下ニ募債打切トナリ、之カ爲メニ公債支辨ニ屬スル各種ノ事業ハ中止ノ厄ニ遭ヒ中ニモ督府ノ鐵道建設改良及補充事業並ニ工作事業ノ一部ハ等シク公債支辨ナルカ爲メ中止若シクハ繰延ノ運命ニ陥リ、本年度以降ノ計畫事業ニ一頓挫ヲ來セリ

運輸營業上ニハ一般不景氣ノ外特ニ記スヘキ影響ナシ

今項ヲ分チ左ニ其ノ概要ヲ略述スヘシ

一、鐵道建設改料及補充工事ニ及ホシタル影響

イ、建設工事ノ内宜蘭線建設ニ就テハ幸ニ甚タシキ影響ヲ受ケサリシモ枋寮線建設ニ就テハ潮州枋寮間(約十五哩五分)ハ大正十三年度迄ニ全部開通ノ豫定ナリシモ僅カニ潮州溪州間(約四哩五分)ヲ開通シタルノミニテ他ハ全部打切り中止セラレタリ、之ヲ以テ同地方ノ一般交通並産業開發ニ影響ヲ及ホスコト鮮少ナラス、又臺東線(玉里里壠間約廿二哩二分)ハ大正十三年度迄ニ工事ヲ完成シ茲ニ花蓮港臺東間全線連絡ヲ爲シ得ル豫定ナリシモ更ニ一ケ年ヲ伸長シ大正十四年度ニテ完成ノコトニ變更セラレタル爲メ一般交通連絡上ハ勿論東部臺灣ノ開發上少カラサル影響ヲ采セルヤ言フ俟タス

ロ、改良工事 改良工事ノ内縱貫線追分彰化間復線工事ハ海岸線開通ニ伴ヒ運輸上必須ノ施設ニシテ

大正十二年度内ノ完成ノ豫定ナリシモ一ケ年ヲ繰延ヘ大正十三年度ニ完成ノコト、ナリ夫レ迄運輸上多大ノ不便ヲ忍ハサルヘカラス

又嵌子脚改良工事(六十分ノ一勾配ヲ百分ノ一ニ緩和スルモノニシテ輸送ノ圓滑ヲ期スル上ニ於テ急施ヲ要スルモノ)ニ就キテモ亦同様ノ一ケ年度繰延ヲ已ムナクセラレタリ

ハ、補充工事 經常費ニ屬スル補充工事ハ運輸營業ノ進展ニ伴ヒ急設ヲ要スルモノ少ナカラス而モ前年度來經費節減ノ折柄今回更ニ豫算緊縮ノ結果中止シ後年度ノ計畫ニ讓ルノ外ナキニ至リタルモノ少ナカラス

二、工作事業ニ及ホシタル影響

大正十二年度既定作業計畫中未着手ノモノ即チ貨車新製三十五輛機關車組立八輛連結器改造六十輛客車改造四輛等ノ作業ハ緊縮ノ結果中止スルコト、ナリ之カ爲メ職工三百二十五人ヲ解僱ノ已ムナキニ至レリ

三、運輸營業ニ及ホシタル影響

運輸營業ニ及ホシタル影響トシテハ内地連絡運輸取扱ノ制限(震災地及其ノ附近トノ旅客ハ手小荷物連絡扱一時中止)荷物ノ返送及運賃拂戻罹災者並救護若ハ慰問品ノ無賃輸送及復興用木材割引輸送等ナルヘシ

船舶ニ依ル運輸業並ニ一般交通ニ及ホシタル影響トシテ特記スル程ノ影響ヲ見ス

一三六

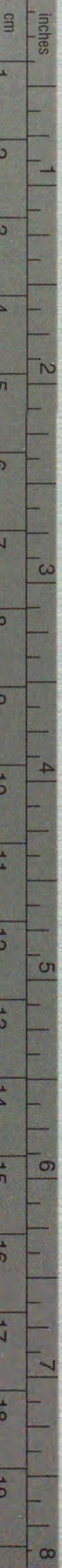
受 入	27. 8. 15
種 録	4962
分	682
類	7
運輸省圖書館	

運輸省図書館



0 1 0 8 3 5

(塚田印刷所印行)



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19